

みんなと学ぶ

小学校 算数 2年

令和 2～5 年度用 年間指導計画作成資料

ご利用にあたって

各欄での文頭のマークは下記の内容を示しています。

・「学習活動」の欄

☆の印…「数学的活動」の内容

★の印…「生活への活用」の内容

・「指導上の留意点と評価の観点」の欄

● …… 指導上の留意点

【知】…「知識・技能」の評価の観点

【思】…「思考・判断・表現」の評価の観点

【主】…「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点

※「評価の観点」については、その時間で中心になるものにしぼって記してあります。

学習時期、配当時間、評価規準などは、今後変更になる場合がございます。ご了承ください。

学校図書株式会社

1 ひょうと グラフ せいのり の しかた や あらわし方 を 考えよう

<4月上旬・6ページ・4時間>
学習指導要領との関連 D(1), [数学的活動](1)イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	データを分類整理して、表やグラフに表すと、数値や傾向が読み取りやすくなることを理解することができる。	データを分類整理する方法や、簡単な表やグラフにわかりやすくまとめる方法を考え工夫する力を養う。	表やグラフのよさを知り、整理のしかたやまとめ方、表し方を工夫し活用しようとする態度を養う。
A	データを目的に合わせて分類整理し、表やグラフに的確に表したり、表した数値や傾向を読んだりすることができるとともに、その資料が比べやすくなったり違いを読み取りやすくなったりすることを理解している。	データを落ちなく分類整理する方法や、簡単な表やグラフにわかりやすくまとめる方法を、表現のしかたを考え工夫している。	身近な事柄を調べ、分類整理して表やグラフを用いて表すことのよさに気づき、教え方や書き表し方を工夫して、それらを進んで活用しようとしている。
B	データを分類整理して、表やグラフに表したり読んだりすることができるとともに、その資料が比べやすくなることを理解している。	データを分類整理する方法や、簡単な表やグラフにわかりやすくまとめる方法を考えている。	身近な事柄を調べ、表やグラフを用いて表すよさに気づき、それらを活用しようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
ひょうと グラフ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●育てたい野菜ごとの人数を調べ、同じ野菜の人数を数えて、表に書き表す。 ●育てたい野菜別に作成した表から、簡単なグラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●育てたい野菜ごとの人数を落ちなく数え、表の中に数を書き入れる。 ●表から野菜別の人数をグラフの中に○で記入し、グラフを作成する。 <p>☆表で表すよさや、グラフに表すよさについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ仲間に分けると、表にしやすいことに気づかせる。 ●グラフに表すことで、人数の違いがとらえやすくなることに気づかせる。 <p>【思】資料を分類整理する方法や、簡単な表やグラフにわかりやすくまとめる方法を考えている。</p> <p>【知】表のかき方や意味を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●育てたい野菜別に作成した表から、簡単なグラフに表す。 ●グラフを読む。 ●より見やすく工夫できないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●表から人数をグラフの中に○で記入し、グラフを作成する。 ●作成したグラフから読み取れることを話し合う。 ●より見やすいグラフにするにはどうすればよいか表現を工夫する。 ●多い順に並べ替えたグラフを作成する。 <p>☆観点を定めてデータを整理し、特徴を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グラフを見やすくする工夫について考えさせる。 ●グラフの左から数の多い順に並べたり、横に数を書いたりすると見やすくなることに気づかせる。 <p>【知】同じ条件のものをまとめ、グラフにし、最大値や差を読み取ることができる。</p> <p>【主】表やグラフの便利さに気づき、より見やすくなるように工夫しようとしている。</p>
ふかめよつ (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●表やグラフに表すことを用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●抜けた乳歯の本数が同じ人が何人いるのかを○を使ってグラフに表す。 ●前時のグラフと比較し、それぞれのグラフのよいところを話し合う。 <p>★身の回りの事象について、データを通じて考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を定めて、データを整理し、特徴を把握させる。 <p>【主】身の回りの事象について、データを通じて考察しようとしている。</p>
できるまじりになったこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●天気調べの結果を落ちなく数えて、表に日数を書く。 ●○を使ってグラフに表し、読み取る。 ●グラフや表を見てその意味を読み取り、説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●理解不十分な児童には、表に印をつけたり、○の数と数を対比させたりして考えるよう助言する。

2 時こくと 時間 (1)

時こくや 時間を読んで 生活に いかそう

<4月中旬・9ページ・3時間>
学習指導要領との関連 C(2), [数学的活動](1)イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>時間や時刻を、時計や帯時計で求めることができる。また、時間の単位換算ができる。</p> <p>時刻と時間の違いや、1時間=60分、1日=24時間の関係を理解することができる。</p>	<p>時計や帯時計の目盛りをもとに、長針や短針の位置関係に着目して時間や時刻を調べる力を養う。</p>	<p>日常生活の場面に応じた時刻や時間を読み、自分の生活に生かそうとする態度を養う。</p>
A	<p>60進法の考えをもとに、必要な時間や時刻を正確に求めることができる。また、正しく単位換算ができる。</p> <p>時間と時刻の違いを正しく理解している。また、60進法の考えがわかり、1時間=60分、1日=24時間の関係を理解している。</p>	<p>時間と分の関係が60進法に基づいていることに気づき、言葉や図を用いて表現して時間や時刻について考えている。</p>	<p>身の回りでは、様々な場面で時刻や時間が表されていることに興味をもち、日常生活の中でも、時間と時刻を使い分けながら用いようとしている。</p>
B	<p>必要な時間や時刻を求めることができる。また、単位換算ができる。</p> <p>時間と時刻の違いを理解している。また、1時間=60分、1日=24時間の関係を理解している。</p>	<p>長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べている。</p>	<p>時計に関心をもち、日常生活の中でも、時間と時刻を使い分けようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 時こくと時間 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●時計を見て、分を単位とする時刻を読む。 ●長針が1目盛り進む時間が1分間であることや、1回りすると60分間で1時間になることを理解し、かかった時間を読み取る。 ●経過量としての時間と、時間の両端としての時刻の違いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時計の短針と長針を見て、「何時何分」と時刻を読む。 ●時計を見ながら、1分間の長さを体験する。 ●長針が何目盛り進んだのかを読み取り、かかった時間を調べる。 ●時刻と時間の違いを知る。 ●長針が1回りするときの短針の動きを調べ、長針の1回りが60分間で1時間であることを具体的な場面で確かめる。 <p>☆1分間をもとにすれば、いろいろな時間を表すことができることを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実際に時計を見ながら、1分間の長さを体験させたい。 ●模型の時計を用いて、長針や短針の動きを調べられるようにする。 ●帯時計で、時間と時刻の違いを確かめられるようにする。 <p>【知】長針と短針の動きと時間の関係を理解している。</p> <p>【知】時計の仕組みや時間の関係を用いて、時間を調べることができる。</p>
2 1日の時間 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●生活体験をもとに、1日の時間を量としてつかむ。 ●午前、午後をつけて、時刻を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1日に短針は何回回るか調べ、1日が何時間になるか考える。 ●生活場面の時刻を、午前・午後をつけて読む。 <p>☆日常生活における出来事を算数と結びつけて考えたり処理したりする。</p> <p>★自分の生活とつなげながら時間を考え、生かせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●短針が1回転する間に12時間要するから、1日が24時間であるという関係を、図や模型の時計等をもとに確認させる。 <p>【知】1日=24時間であることがわかり、午前・午後をつけた時刻の表し方を理解している。</p> <p>【思】長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べている。</p>
ま な び を い か そ う で き る よ う に な っ た こ と (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 ●時間の単位換算をする。 ●午前、午後関係を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時計を見て、生活場面の時刻についての問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●前のページに戻ったり、模型の時計を使ったりするなど、児童に応じて支援する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 ●時間の単位換算をする。 ●時計の文字盤に時刻を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活場面の時間や時刻についての問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。

3 2けたの たし算と ひき算 くふうして 計算のしかたを 考えよう

＜4月下旬・8ページ・2時間＞
学習指導要領との関連 A(2)ア(ア), [数学的活動](1)ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	(2位数)+(2位数)や(2位数)-(2位数)の計算のしかたを理解することができる。	12+23や25-13の答えを求めるために、既習事項をもとに、言葉や図、式などを用いて考える力を養う。	(2位数)+(2位数)や(2位数)-(2位数)の問題に、既習事項を使って取り組もうとする態度を養う。
A	(2位数)+(2位数)や(2位数)-(2位数)の計算のしかたを理解し、計算できる。	12+23や25-13の計算は、図や式などを用いて考えて、10のまとまりを作って、位ごとに計算すればよいことに気づき、表し方などを工夫して考えている。	(2位数)+(2位数)や(2位数)-(2位数)の計算のしかたを、ブロックのまとまりや並べ方に着目して考え、よりわかりやすい方法を考え出そうとしている。
B	ブロックなどの半具体物の操作を通して、位ごとに計算することができる。	12+23や25-13の計算は、図や式などを用いて考えて、10のまとまりを作って数えたり、位ごとに計算したりすればよいことに気づいている。	(2位数)+(2位数)や(2位数)-(2位数)の計算のしかたを、半具体物を使って考えようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 たし算 (1)	●具体的な場面から(2位数)+(2位数)の立式をし、計算のしかたを考える。	●12+23の計算のしかたを、10のまとまりに着目していろいろ考える。 ●(2位数)+(2位数)の具体的な問題場面を式に表す。 ●自分の考えを、ノートにまとめる。 ☆クッキーをおはじきやブロックに置き換えて考え、10ずつにまとめ、十の位どうし、一の位どうしを計算すればよいことを説明する。	●考え方の共通点を探したり、表し方の違いに着目させたりさせる。 【主】2位数同士の加法の計算のしかたを、半具体物を使って考えようとしている。 【思】2位数同士の加法は、10のまとまりを作って、位ごとに計算すればよいことに気づいている。 ●教科書31ページの「考えるノート」を参照させるとよい。
2 ひき算 (1)	●具体的な場面から(2位数)-(2位数)の立式をし、計算のしかたを考える。	●25-13の計算のしかたを、10のまとまりに着目していろいろ考える。 ●(2位数)-(2位数)の具体的な問題場面を式に表す。 ☆2けたの減法の計算は、十の位どうし、一の位どうしを計算することを説明する。	●考え方の共通点を探したり、表し方の違いに着目させたりさせる。 【主】2位数同士の減法の計算のしかたを、半具体物を使って考えようとしている。 【思】2位数同士の減法は、10のまとまりを作って、位ごとに計算すればよいことに気づいている。

4 たし算の ひっ算 たし算の いみや しかたを 考えよう

＜4月下旬～5月中旬・11ページ・7時間＞
学習指導要領との関連 A(2), 内容の取扱い(2)・(3), [数学的活動](1)ウ・エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	位ごとに計算する筆算のしかたとその意味がわかり、交換法則や結合法則が成り立つことを理解することができ、計算が筆算でできる。	加法の筆算は位ごとに計算を繰り返せばよいことに気づき、既習事項をもとに図や式などを用いて表現し、計算のしかたを考える力を養う。	ブロック操作と対応させて筆算のしかたを考えようとしたり、加法のきまりを活用したりしようとする態度を養う。
A	十の位、百の位、千の位への繰り上がりを処理して、2位数同士の加法の計算を筆算で正確にできる。 位をそろえて計算する意味や繰り上がりの仕組みがわかり、交換法則や結合法則が活用できる場面を理解している。	ブロックなどの具体物と結びつけながら位ごとに計算する意味を考え、図や式などを用いて表現し、計算のしかたや計算の順序やそのよさについて考えている。	十進位取り記数法の仕組みを利用したり、既習の計算を活用したりして、加法のよりよい計算のしかたを考えようとしている。
B	繰り上がりに気をつけて、2位数同士の加法の計算を筆算でできる。 位ごとに計算する筆算のしかたとその意味がわかり、交換法則や結合法則が成り立つことを理解している。	位ごとの計算に着目して、図や式などを用いて表現し、筆算のしかたを考えている。	既習の計算をもとに、2位数同士の加法の計算のしかたを考えようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 2 けたの たし算 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●加法の用いられている場面を式に表し、繰り上がりのない2位数の加法の計算のしかたを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●加法の問題場面をテープ図で表す。 ●テープ図をもとに加法の式で表し、計算のしかたを考える。 ●ブロック操作と対応させながら、筆算のしかたを知る。 ●既習の計算から、位を縦にそろえて計算する方法を考える。 ●(2位数)+(何十)の筆算のしかたを考える。 ●筆算形式の書き方やしかたを練習する。 <p>☆筆算のしかたを考え、ブロックの操作をもとに説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●十進位取り記数法により、位ごとに計算することを確認し、筆算形式の計算が有効であることに気づかせる。 ●繰り上がりのある計算への移行がスムーズにできるように一の位から計算させる。 <p>【主】数の意味やブロック操作をもとにして、位を縦にそろえて書く筆算のしかたを考えようとしている。</p> <p>【思】既習事項をもとに図や式などを用いて表現し、計算のしかたを考えている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●繰り上がりのない(1位数)+(2位数)、(2位数)+(1位数)の筆算のしかたがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●(1位数)+(2位数)、(2位数)+(1位数)の筆算のしかたを考える。 ●筆算形式の書き方やしかたを練習する。 <p>☆縦に位をそろえて書き、同じ位どうしで計算することを、ブロックの操作と合わせて説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●桁数の違う数でも、位をそろえると筆算ができることを押さえる。 <p>【知】筆算は位をそろえて書き、同じ位同士計算することを理解している。</p> <p>【知】筆算に書き表して計算ができる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●(2位数)+(2位数)で、ブロック操作と筆算を対応させ、繰り上がりの意味を理解する。 ●繰り上がりのある(2位数)+(2位数)の筆算のしかたがわかり、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロックの操作をすることにより、繰り上がりの意味を理解し、十の位に繰り上がる計算のしかたを考える。 ●筆算の表記と計算の順序を対応させて説明する。 <p>☆既習事項(1年「繰り上がりのある計算」)との関連を意識させ、解決の見通しをもち、解決方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●繰り上がりのある筆算形式の正しい書き方やしかたを考え、計算を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●計算の順序に着目できるようにする。 ●繰り上がる時の目印として、小さい数字を書き入れるなど、工夫して計算させる。 <p>【思】繰り上がる時の筆算の書き方や計算の順序をブロック操作と対応させて考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理解不十分な児童には、位をそろえて書いて計算するよう助言する。 <p>【知】繰り上がりのある計算が筆算でできる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●(2位数)+(1, 2位数)で繰り上がりのある計算のしかたを考える。 ●答えが50になる加法の式を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●(2位数)+(2位数)で繰り上がって一の位が0になる筆算と、(2位数)+(1位数)で繰り上がりのある筆算のしかたを考える。 <p>☆いろいろな式を比較し、その式について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一の位には「0」と記入することを確認する。 <p>【知】空位の意味や、位をそろえて書き表すことを理解している。</p>

2 たし算の きまり (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●加法では、被加数と加数を取り替えてたしても答えが同じになることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な操作活動を通して、加法の交換法則を知る。 ☆交換法則が成り立つ理由について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●$\bigcirc + \triangle = \triangle + \bigcirc$のように形式的に理解させるのではなく、操作や計算を通して理解させる。 【知】加法の交換法則と、それを使って答えを確かめられることを理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●3口の加法では、前の2口を先にたしてもあとの2口を先にたしても答えは同じになることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●位ごとに計算することに着目して、先に計算すると簡単に答えを導けることに気づき、加法の結合法則を知る。 ☆（ ）の意味とそのよさについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一の位が空位になる加法を優先的に行うことで、順に計算するよりも効率よく計算できることに気づかせ、算数のよさを感じ取らせる。 【知】加法の結合法則がわかり、先に計算する場合には、（ ）を使うことを理解している。 【主】結合法則を利用して工夫して計算しようとしている。
できるようになったこと まなびをいかそう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●(2位数)+(2位数)の筆算のしかたを確かめる。 ●(2位数)+(2位数), (1, 2位数)+(2, 1位数)の筆算の練習をする。 ●加法の交換法則や結合法則を利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●筆算の理解が不十分な児童に対しては、筆算の仕組みについて、小集団指導したり、ブロック操作をさせたりして理解させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2位数同士の加法の計算練習をする。 ●文章を読んで立式し、筆算で答えを求める。 ●加法の交換法則や結合法則を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。

5 ひき算の ひっ算 ひき算の いみや しかたを 考えよう

<5月中旬～下旬・11ページ・7時間>

学習指導要領との関連 A(2), 内容の取扱い(2)・(3), [数学的活動](1)ウ・エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	(2位数)－(2位数)の減法で、位ごとに計算する筆算のしかたとその意味を理解し、繰り下がりがなしや、繰り下がりありの計算が筆算でできる。	減法の筆算は位ごとの計算を繰り返し、繰り下がりがないことに気づき、既習事項をもとに図や式などを用いて表現し、計算のしかたを考える力を養う。	ブロック操作と対応させて筆算のしかたを考えようとしたり、減法のきまりを活用したりしようとする態度を養う。
A	(2位数)－(2位数)の減法の計算を筆算で正確にできる。 (2位数)－(2位数)の減法の計算のしかたや、減法と加法は互いに逆の関係になっていることを理解している。	ブロックなどの具体物と結びつけながら位ごとに計算する意味を考え、図や式などを用いて表現し、計算のしかたや計算の順序やそのよさについて考えている。	十進位取り記数法の仕組みを利用したり、既習の計算を活用したりして、減法のよりよい計算のしかたを考えようとしている。
B	(2位数)－(2位数)の減法の計算を筆算でできる。 (2位数)－(2位数)の減法で、位ごとに計算する筆算のしかたとその意味を理解している。	位ごとの計算に着目して、図や式などを用いて表現し、筆算のしかたを考えている。	既習の計算をもとに、2位数同士や簡単な3位数の減法の計算のしかたを考えようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 2けたの ひき算 (4)	●減法の用いられている場面を式に表し、繰り下がりのない2位数の減法の計算のしかたを考える。	●減法の適用場面を知り、式に表す。 ●加法の筆算をもとにして、繰り下がりのない(2位数)−(2位数)の筆算のしかたを考える。 ☆ブロック操作と対応させながら、筆算のしかたを説明する。	●加法のときと対応させて、位をそろえることの意味を強調する。 【知】ブロック操作から、場面や減法の意味とともに、計算のしかたを理解している。
	●繰り下がりのない(2位数)−(2位数)、(2位数)−(1位数)の筆算のしかたがわかる。	●(2位数)−(何十)、(2位数)−(1位数)の筆算のしかたを考える。 ●筆算形式の書き方やしかたを練習する。 ☆減法の筆算は、縦に位をそろえて書き、同じ位どうして計算することを説明する。	●繰り下がりがある計算への移行がスムーズにできるように、一の位から計算させる。 【思】減法の筆算形式が加法と同様の形で表せることを類推して考えている。
	●繰り下がりのある(2位数)−(2位数)の筆算のしかたを考える。	●繰り下がりのない筆算との違いを見つけ、ブロックの操作をすることにより、繰り下がりの意味を知り、筆算のしかたを考える。 ☆既習事項(1年「繰り下がりがある計算」)との関連を意識させ、解決の見通しをもち、解決方法を説明する。	●筆算の手順の言葉とブロックの操作を結びつけるようにする。 【思】ブロック操作と対応させながら、繰り下げて計算する方法を順序よく考えている。
	●繰り下がりのある(2位数)−(2位数)の筆算の練習をする。 ●(何十)−(2位数)や差が1位数になる筆算のしかたを考える。 ●繰り下がりのある(2位数)−(1位数)の筆算のしかたを考える。	●繰り下がりのある筆算形式を練習する。 ●70−43や34−26のような筆算で、空位の処理のしかたを考える。 ●(2位数)−(1位数)で繰り下がりのある筆算のしかたを考える。 ☆位をそろえて計算することを説明する。	●理解の十分でない児童にはブロックを使わせ、繰り下がりのある筆算のしかたを十分に理解させる。 【知】(何十)−(2位数)や、差が1位数になる筆算ができる。 【知】(2位数)−(1位数)の筆算ができる。
2 たし算と ひき算の かんけい (1)	●減法では、答えに減数をたすと、被減数になることに気づく。 ●減法の確かめ方を理解する。	●テープ図や言葉の式をもとに、被減数・減数・答えの関係を調べ、加減の関係を考える。 ●減法の計算結果を、加法を用いて確かめる。 ☆加法と減法の相互関係について、図と関連づけて考えようとする。	●テープ図や言葉を使って、減法が加法の逆の計算であることに気づくようにする。 【知】減法が加法の逆算であることと、計算の確かめに利用できることを理解している。

<p>まなびをいかにしよう できるよになったこと (1)</p>	<p>●既習事項の確かめをする。</p>	<p>●(2位数)－(2位数), (2位数)－(1位数)の筆算の練習をする。 ●文章を読んで問題場面を理解し、解決する。</p>	<p>●既習内容について理解しているか確認する。</p>
<p>ふかめよう (1)</p>	<p>●虫くい算に興味をもち、虫くい算を通して、筆算についての理解を深め、計算の楽しさを味わう。</p>	<p>●虫くい算の意味を理解する。 ●既習内容から筆算の仕組みを生かして、解決の方法を考え、説明する。 ☆虫食い算を作り、友だちと交換して解こうとする。</p>	<p>●筆算の仕組みや逆算の考えから、□に入る数を考えさせる。 【主】虫くい算を通して計算の楽しさを味わい、興味・関心をもって考えようとしている。</p>
<p>まなびをいかにしよう できるよになったこと (1)</p>	<p>●既習事項の理解を深める。</p>	<p>●筆算の間違いを発見し、正しい筆算をする。 ●(2位数)－(2位数)の筆算のしかたを確かめる。 ●(2位数)－(2位数), (2位数)－(1位数)の筆算の練習をする。 ●文章を読んで問題場面を理解し、解決する。</p>	<p>●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●筆算の理解が不十分な児童に対しては、筆算の仕組みについて、小集団指導したり、ブロックを操作させたりして理解させる。</p>

6 1000までの数 数のあらし方やしくみをしらべよう

<5月下旬～6月上旬・14ページ・7時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア), [数学的活動](1)ア・イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>十進位取り記数法にのっとり3位数を表したり、数直線上に3位数の位置を表したりすることができる。また、10を単位とした加減ができる。</p> <p>数を相対的な大きさからとらえるなど、数についての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>10ずつ、100ずつまとめて数を数えればよいと考えたり、3位数の計算をするときに、同じ単位で計算していけばよいと考えたりする力を養う。</p>	<p>身の回りの具体的なものの個数を10や100のまとまりにして数えたり、書き表したりしようとする態度を養う。</p>
A	<p>十進位取り記数法の仕組みをもとに、1000までの数について、数えたり書き表したりすることができる。また、3位数を合成したり、分解したりして表すことができる。10を単位とした加法や減法が確実にできる。</p> <p>数を相対的な大きさからとらえるなど、数についての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>具体的なものの個数を数える活動を通して、十進位取り記数法の仕組みをもとに、2位数の表し方から類推して3位数の表し方を考え、表現している。</p> <p>また、10を単位とした加法や減法の計算のしかたを工夫して考えている。</p>	<p>まとめて数えることのよさを、3位数にも生かそうとしている。また、1000までの数を日常生活の中でも進んで読み、書き表そうとしている。</p>
B	<p>十進位取り記数法の仕組みをもとに、1000までの数について、数えたり書き表したりすることができる。また、10を単位とした加法や減法ができる。</p> <p>3位数の表し方、百の位の意味、数の大小や順序についてその仕組みを理解している。</p>	<p>具体的なものの個数を数える活動を通して、十進位取り記数法の仕組みをもとに、3位数の表し方を考えている。また、10を単位とした加法や減法の計算のしかたを考えている。</p>	<p>具体的なものの個数を10や100のまとまりにして、数えようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 100 より 大きい 数 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●たくさんのひよこを、工夫して数える。 ●3位数の数構成、読み方、書き方及び百の位の意味を理解する。 ●3位数の読み方、書き方、数構成について練習をし、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ひよこが何羽いるか、数え方を工夫する。 ●ブロックを10ずつ、100ずつのまとまりで箱に入れたり、線で囲んだりする操作から、3位数の仕組みを考える。 ●操作と対応させながら、十進位取り記数法による3位数の読み方、表し方、書き方、百の位の意味を知る。 ●3位数を読んだり書いたりする。 ●3位数の読み方、書き方、数構成について考える。 <p>☆100より大きい数はどのように表せばよいか考え、説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1年の学習を振り返り、いろいろ工夫して数えさせるようにする。 <p>【主】10ずつにまとめれば数えやすいことを1年のときの学習を想起し、工夫して数えようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●半具体物や絵で数を読み取ることから、位ごとの数で数構成できるように抽象化していく。 <p>【知】1年の100までの数で学習した内容から類推し、数字を書く位置(位)によって数の大きさが決まることを理解している。</p> <p>【知】位数の読み方、書き方、数構成について理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●一の位や十の位が0のとき、またその両方が0のときの読み方や書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各位の箱の中には、何がどれだけあるのかを確かめ、一の位や十の位が0のとき、またその両方が0のときの読み方や書き方を考える。 <p>☆ブロックを使って、数の表し方を考え、説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●位の大きさと数字を対応させて唱えさせ、空位のある3位数の表し方を理解させる。 <p>【思】十の位が空位の0の場合や、一の位が空位の0の場合の表し方を考えている。また、空位は読む必要がないことを見出している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●3位数の数構成や数系列、数直線について理解する。 ●1000(千)の大きさと系列や構成を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各位の数に着目し、空位を含む3位数を書いたり読んだりする。 ●既習内容を使って、3位数の数系列を考える。 ●100の単位を1ずつ多くし、100を10個集めた数を1000ということを知る。 ●ある数よりいくつか大きい数や小さい数を考える。 <p>☆数直線の1目盛りの大きさを考えたり、いくつとびで数が並んでいるのかを考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●数直線の1目盛りの大きさを意識させながら、確実に数直線上の数の位置や順序をとらえさせる。 <p>【知】数の変わり方や、数直線の目盛りの大きさをとらえ、連続する3位数を読み取ることができる。</p> <p>【知】1000までの数の大きさや構成、系列を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●3位数の相対的な見方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●半具体物を使って、何百何十を10の何個分と表したり、何百を100や10のまとまりで言い表したりする。 <p>★日常生活の中で、230円を十円玉23枚に両替しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●お金を用いて、10や100を単位としての数の大きさをとらえられるようにする。 <p>【思】10や100を単位として、3位数を相対的な大きさをもとに考えている。</p>

<p>2 数の 大小 (1)</p>	<p>●3位数の大小がわかる。</p>	<p>●比較する位ごとの数字に着目して、3位数の大小を比べる。 ●>や<の記号を使って、数の大小を表す。 ☆2つの数の大小比較について、どのようにすれば比べられるか、その方法を説明し、話し合う。</p>	<p>●数の大小を比べるときは、大きい位から順に比べていけばよいことに気づかせる。 【知】大小関係は、上の位から順に比べていけばよいことや、>や<の記号の使い方を理解している。</p>
<p>3 たし算と ひき算 (1)</p>	<p>●10を単位とした加法や減法の計算ができる。</p>	<p>●10のまとまりを使って、(何十)+(何十)、(百何十、何十)-(何十)の計算のしかたを考える。 ☆10を単位とした計算方法を考え、そのよさについて話し合う。</p>	<p>●お金を用いて、10を単位とした計算のしかたについて考えさせる。 【知】一の位が空位同士の加法や減法では、10が何個分なのかと考え、計算することができる。</p>
<p>できるよ うになっ たこと まなびを いかそう (1)</p>	<p>●既習事項の確かめをする。</p>	<p>●具体的な場面から、数を正確に表す。 ●3位数の数構成を調べる。 ●3位数の大小比較をしたり、その比べ方を説明したりする。</p>	<p>●既習内容について理解しているか確認する。</p>
	<p>●既習事項の理解を深める。</p>	<p>●数の表し方や仕組み、3けたの数の大きさを確かめる。 ●文章を読んで問題場面を理解し、解決する。</p>	<p>●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●理解が不十分な児童に対しては、小集団指導したり、お金を操作させたりして理解させる。</p>

7 大きい数のたし算とひき算 計算のいみやしかたを考えよう

＜6月上旬～6月下旬・17ページ・12時間＞
学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ), [数学的活動](1)ア・イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	(2位数)+(2位数)や、3位数の加法、その逆の減法や簡単な3位数の減法などで、位ごとに計算する筆算のしかたとその意味を理解し、繰り上がり・繰り下がりなしや、繰り上がり・繰り下がりありの計算が筆算でできる。	加法や減法の筆算は位ごとに計算を繰り返せばよいことに気づき、既習事項をもとに図や式などを用いて表現し、計算のしかたを考える力を養う。	ブロック操作と対応させて筆算のしかたを考えようとしたり、加法や減法のきまりを活用したりしようとする態度を養う。
A	(2位数)+(2位数)の加法や、その逆の減法や簡単な3位数の減法などの計算を筆算で正確にできる。 (2位数)+(2位数)の加法や、その逆の減法や簡単な3位数などの減法のしかたや、減法と加法は互いに逆の関係になっていることを理解している。	ブロックなどの具体物と結びつけながら位ごとに計算する意味を考え、図や式などを用いて表現し、計算のしかたや計算の順序やそのよさについて考えている。	十進位取り記数法の仕組みを利用したり、既習の計算を活用したりして、加法や減法のよりよい計算のしかたを考えようとしている。
B	(2位数)+(2位数)の加法や、その逆の減法や簡単な3位数などの減法の計算を筆算でできる。 (2位数)+(2位数)の加法や、その逆の減法や簡単な3位数などの減法で、位ごとに計算する筆算のしかたとその意味を理解している。	位ごとの計算に着目して、図や式などを用いて表現し、筆算のしかたを考えている。	既習の計算をもとに、2位数同士や簡単な3位数などの加法や減法の計算のしかたを考えようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 答えが 3けたになる たし算 (3)	●(2位数)+(2位数)で、百の位に繰り上がる筆算のしかたを考える。	●位ごとに計算することで、百の位に繰り上がる計算のしかたを、ブロックの操作などを通して考える。 ●(2位数)+(2位数)で繰り上がって、百の位が1になる筆算のしかたを知る。 ☆百の位に繰り上がる加法を言葉や図を用いて説明する。	●既習の2位数における繰り上がりのある加法と結びつけて理解させる。 【思】百の位に繰り上がって、答えが3位数になる筆算の仕組みを、言葉や図を用いて表現し考えている。
	●(2位数)+(2位数)で、百の位と十の位に繰り上がる筆算のしかたを考える。	●(2位数)+(2位数)で百の位と十の位に繰り上がって3位数になる筆算のしかたを考える。 ☆十の位と百の位に繰り上がる加法を言葉や図を用いて説明する。	●前時の十の位が繰り上がる加法の学習から一の位が繰り上がる計算を考えさせ、その方法を見出させる。 【知】十の位に繰り上がって、百の位に繰り上がりが波及する筆算の仕組みを説明できる。
	●一の位が繰り上がって百の位に波及する筆算のしかたを考える。	●(2位数)+(2位数)や(1位数)+(2位数)で、一の位が繰り上がって百の位に波及する筆算のしかたを考える。	●答えの十の位は、繰り上がりがあるかどうかを考えさせる。 【知】繰り上がりのある計算ができる。
2 3けたの たし算 (2)	●(何百)+(何百)の計算のしかたや、和が1000になる計算のしかたを考える。	●(何百)+(何百)の計算のしかたを考える。 ●繰り上がって1000になる筆算のしかたを考える。 ☆何百の加法のしかたを説明する。	●100を単位とした見方ができ、計算方法を考えさせる。 【知】百を単位として計算できることや、1000になる計算のしかたを理解している。
	●(3位数)+(1, 2位数)の計算のしかたを考える。	●(3位数)+(1, 2位数)の筆算の書き表し方を考え、繰り上がりに注意して計算する。 ☆(3位数)+(1, 2位数)の筆算のしかたを説明する。	●位をそろえてかくことと、一の位から順に計算することを確認する。 【知】(3位数)+(1, 2位数)で、正しく筆算に書き表して、計算ができる。

3 100 より 大きい 数から ひく ひき算 (3)	<p>●(百何十何)−(2位数)で、百の位から繰り下がる筆算のしかたを考える。</p>	<p>●被減数を計算しやすいように分け、10を単位とした計算を活用して、答えの求め方を考える。</p> <p>●ブロックの操作をすることにより、百の位から十の位へ繰り下がる筆算のしかたを考える。</p> <p>☆百の位から繰り下がる減法を言葉や図を用いて説明する。</p>	<p>●筆算の手順の言葉とブロックの操作を結びつけるように説明させる。</p> <p>【思】十の位から繰り下がるときと同じように、百の位から繰り下げて計算すればよいことに気づき、図や式を用いて表現し考えている。</p>
	<p>●(百何十何)−(2位数)で、十の位からと百の位からの2回繰り下がりのある筆算のしかたを考える。</p>	<p>●ブロックの操作をすることにより、2回繰り下がることに着目して、筆算のしかたを考える。</p> <p>☆百の位と十の位から繰り下がる減法を言葉や図を用いて説明する。</p>	<p>●筆算の手順の言葉とブロックの操作を結びつけるように説明させる。</p> <p>【思】まず十の位から繰り下げ、さらに百の位からも繰り下げて計算する方法を順序よく考えている。</p>
	<p>●(百何)−(1, 2位数)で、被減数の十の位が空位のときの筆算のしかたを考える。</p>	<p>●被減数の十の位が空位のときの筆算のしかたを考える。</p> <p>☆十の位から1繰り下げることができないときは、百の位から十の位へ1繰り下げて、さらに、十の位から一の位に1繰り下げる計算方法を、筆算のしかたの手順にそって説明する。</p>	<p>●計算のしかたについて式や図を使って説明させる。</p> <p>【思】被減数の十の位が空位のとき、百の位から繰り下げ、それを使って一の位を計算する方法を考えている。</p>
4 3けたの ひき算 (2)	<p>●(何百)−(何百)の計算のしかたや、(千)−(何百)の計算のしかたを考える。</p>	<p>●(何百)−(何百)の計算のしかたを考える。</p> <p>●(千)−(何百)の筆算のしかたを考える。</p> <p>☆どこにくり下がりがあるか考え、説明する。</p>	<p>●100を単位とした見方ができ、計算方法を考えさせる。</p> <p>【知】百を単位として計算できることや、1000からひく計算のしかたを理解している。</p>
	<p>●(3位数)−(1, 2位数)の計算のしかたを考える。</p>	<p>●(3位数)−(1, 2位数)の筆算の書き表し方を考え、繰り下がりに注意して計算する。</p> <p>☆筆算の間違いを見つけ、話し合う。</p>	<p>●位をそろえてかくことと、一の位から順に計算することを確認する。</p> <p>【知】(3位数)−(1, 2位数)で、正しく筆算に書き表して、計算ができる。</p>

まなびをいかにしよう できるよくなったこと (1)	●既習事項の確かめをする。	●2位数や3位数の加法や減法の筆算の練習をする。 ●文章を読んで問題場面を理解し、解決する。	●既習内容について理解しているか確認する。
	●既習事項の理解を深める。	●筆算の間違いを発見し、正しい筆算をする。 ●2位数や3位数の筆算のしかたを確かめる。 ●文章を読んで問題場面を理解し、解決する。 ★加法や減法を使って問題を作ろうとする。	●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●筆算の理解が不十分な児童に対しては、筆算の仕組みについて、小集団指導したり、お金やブロックを操作させたりして理解させる。
ふかめよう (1)	●小町算に興味をもち、小町算を通して、計算の理解を深め、楽しさを味わう。	●小町算の意味を理解する。 ●既習内容から計算方法を駆使して、解決の方法を考え、説明する。 ★9～1のように逆に並んでいるときも100を作ることができないか考える。	●計算の仕組みや計算の工夫、逆算の考えなどを生かして、100になる数を考えさせる。 【主】小町算を通して計算の楽しさを味わい、興味・関心をもって考えようとしている。

ふりかえろう つなげよう

<7月上旬・2ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●加法と減法の筆算を比較し、その特徴を考える。	●加法を減法の筆算の似ているところや違うところを考え、整理する。	●加減の筆算を統合的に考察し、次の学年への発展的な発言を引き出す。 【主】筆算について、その仕組みを考えようとしている。

8 長さ (1)

長さの くらべ方や あらわし方を 考えよう

<7月上旬～中旬・14ページ・8時間>
学習指導要領との関連 C(1), [数学的活動](1)ア・ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>ものさしを用い、cm, mmを単位として測ることができ、決まった長さの直線を引くことができる。また、簡単な長さの加法、減法の計算ができる。</p> <p>長さを表す単位を知るとともに、長さを表すには、cm, mmの単位を用いればよいことを理解することができる。また、長さについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え表現したり、1cmより短い長さの表し方や、長さの加減のしかたを考えたりする力を養う。</p>	<p>普遍単位(cm, mm)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを測定しようとする態度を養う。</p>
A	<p>単位換算をしながら簡単な長さの加法、減法ができる。</p> <p>長さの単位の仕組みや測定の方法や、cmとmmの関係を理解し、長さの測り方や決められた長さのかき方を理解している。また、身の回りのものの大きさの見当をつけるなど、長さについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>普遍単位で長さを表すよさや、1cmより小さい単位の必要性を感じ、長さに適した測り方や表し方を考えている。また、単位の関係に着目して、長さの計算方法を考え表現している。</p>	<p>長さをより便利に正確に表そうとし、普遍単位(cm, mm)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを、長さの見当をつけてから測定しようとしている。</p>
B	<p>ものさしとcm, mmの単位を用いて長さを測ることができる。また、ものさしを使い、決まった長さの直線を引くことができる。</p> <p>簡単な長さの加法、減法ができる。</p> <p>長さの単位の仕組みや測定の方法、cmとmmの関係を理解している。また、身の回りのものの大きさの見当をつけるなど、長さについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>決められた単位をもとにして、その単位のいくつかで長さが表せる普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え表現している。</p> <p>また、1cmより短い長さの表し方や、長さの加減のしかたを考えている。</p>	<p>普遍単位(cm, mm)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを測定しようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 長さの くらべ方 (2)	●テープの長さを比べる方法を考え、任意単位で比べることができることに気づく。	●ジャンケンレースのテープの長さを比べる方法を考え、直接比較や間接比較で長さ比べをする。 ●直接比較できないものは、身の回りのものを用いて、そのいくつかで比べる。 ☆「何個分」に対して、任意単位での数値化が必要なことに気づき、違いを数値化する方法を考え、話し合う。	●活動を通して、任意単位にするものは同じにしなければならないことに気づくようにする。 【思】長さ比べの方法を比較検討し、ある長さを単位にすると、そのいくつかで表すことができるかを考えている。
	●工作用紙の目盛りを共通単位とし、いろいろなものの長さを測ろうとする。	●工作用紙の目盛りを共通単位とした棒を作り、身近なものを測定する。 ●目盛り何ます分かで測定の結果を表現する。 ★工作用紙で、長さを測る道具を作り、身の回りのものの長さを測る。	●共通な単位を決め、そのいくつかで表すと長さの違いの表現が統一されることを確認する。 【主】工作用紙のますを使って測ると便利であることに気づき、身の回りにあるいろいろなものの長さを測ろうとしている。
2 長さの あらし方 (4)	●長さを測る道具を使って、身近なものの長さを測定する。 ●長さの単位 cm を知る。 ●1cm 目盛りの棒を使って、テープや線の長さを測定する。	●はがきの横の長さを測定する。 ●工作用紙の1目盛り分の長さが1cmであることを知り、cmを使っていろいろなものの長さを書き表す。 ●1cm目盛りの工作用紙の道具でテープや線の長さを正しい測り方で測定する。 ●10cmに近いものを探す。 ●はしが出たときの表し方を考える。 ★身の回りのもので10cmに近いものを探す。	●目盛りを上に向けて、左端をはがきの辺に沿って合わせるようにする。 ●正確に測ろうとする意識をもたせ、端数の処理のしかたを問題にする。 【知】1cmの長さがわかり、普遍単位として使われていることを理解している。 【知】始点と終点を確認して測ったり、およその見当をつけたりすることができる。
	●ものさしを使うと、はしたの長さまで測ることができることを知る。 ●単位 mm を知る。1cm=10mm の関係を知る。	●ものさしで、細かい目盛りが1cmをいくつに分けた1個分かを調べ、1cmが10mmであることを確かめる。 ●ものさしの目盛りを見て、棒の長さを○cm△mmで正しく測定し、単位を使って書き表したり読んだりする。 ☆はしたの長さを表す単位の必要性を感じ、それについて話し合う。	●工作用紙のますと、ものさしの目盛りとを対応させて、細かい目盛りに注目できるようにする。 【知】1cmを10等分した1個分の長さが1mmであることを理解し、ものさしを使うとはしたの長さも数値化できることを理解している。

2 長さの あらわし方 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って、身近なものの長さを測定する。 ●長さの単位換算を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って、いろいろなものの長さを測る。 ●○cm△mmの長さを、□mmで表したり、□mmで表されたものを、○cm△mmで表したりする。 ☆正確に測れないのは、どこが間違っているのかを気づかせ、正しい測定方法について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしは計器として初めて用いるものであるため、正しい使い方を十分に理解させ、その使い方に慣れさせる。 ●身の回りのものの測定では、長さの見当をつけてから、ものさしで測るようにする。 【知】ものさしを適切に使い、長さを測定することができる。 【知】単位の仕組みをもとにして、単位の換算のしかたを理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って、決まった長さの直線を引く。 ●長さの大小比較をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って、決まった長さの直線を引く。 ●cm, mmの単位で表された長さを大小比較し、等号や不等号を使って表す。 ★ものさしの使い方がわかり、長さを測ったり、決まった長さの直線を引いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしの線を引く側と、長さを測る側とを区別させる。 【知】ものさしを適切に使い、決まった長さの直線を引くことができる。 【知】単位の仕組みを理解し、長さの大小を等号や不等号を使って表すことができる。
3 長さの 計算 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの加法性を理解する。 ●簡単な加法、減法の計算のしかたを理解し、計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●赤い線、青い線それぞれのつなげた長さを実際に測り、加法の計算で求める。 ●赤と青の2本の線の長さの違いを減法の計算で求め、実際に測って確かめる。 ●cmとmmの複名数で表された長さの加減の方法を考える。 ☆長さも加減計算ができることについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●おおよその見当をつけてから測らせるようにする。 【知】同じ単位のところをそろえて加減することを理解している。 【思】長さの加減で、複名数を単名数に変えて計算する方法と、複名数のまま計算していく方法を考えている。
まなびを いかに できるよう になった こと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って線の長さを測定する。 ●長さの単位換算や計算をする。 ●長さの大小比較をする。 ●長さの計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●理解が不十分な児童には、個に応じて助言する。特に、ものさしを用いた測定や作図の技能をしっかり身につけさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使って線の長さを測定し、複名数や単名数で表す。 ●ものさしを使って決まった長さの直線を引く。 ●長さの計算をする。 ●2つの長さを測定して、和と差を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。

かつどう！！

<7月下旬・2ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
<ul style="list-style-type: none">●これまでの単元の学習をもとに、減法の筆算の留意すべきポイントを明確化する。●これまでの単元の学習をもとに、筆算の留意すべきポイントと、それが具体的にどう数として「ひかれているのか」の対応関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none">●それぞれの間違えたところを確認する。●それぞれの間違いの共通点や留意すべきところを班で話し合わせる。	<ul style="list-style-type: none">●代表的な間違いを意図的に用意することで、減法の筆算の理解を振り返らせる。●ミニホワイトボードやタブレット端末などを活用して、間違い箇所と、留意すべきポイントをまとめさせたい。

9 水のかさ かさのくらべ方やあらわし方を考えよう

＜9月上旬～中旬・12ページ・10時間＞
学習指導要領との関連 C(1), [数学的活動](1)ア・ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>1Lますと1dLますを使って、かさを測ることができる。また、かさの加減の計算ができる。</p> <p>かさの単位を使うとかさを正確に表せることや、単位同士の関係 $1L=10dL$, $1L=1000mL$ を理解することができる。また、かさについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>単位の大きさを決めると、かさを数で表すことができる普遍単位のよさに気づき、かさの表し方を考え表現する力を養う。</p>	<p>L, dL, mLなどの普遍単位を用いることのよさに気づき、およその見当をつけて進んでかさを測定しようとする態度を養う。</p>
A	<p>測定するかさの大きさに応じて、用いるますや単位を選択しながら、正確に測定することができる。また、繰り上がりや繰り下がりのあるかさの加減の計算ができる。</p> <p>かさを測る単位と、単位同士の関係 $1L=10dL$, $1L=1000mL$ を確実に理解し、目的に応じて使い分けることを理解している。また、身の回りのものの大きさの見当をつけるなど、かさについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>長さは単位とする長さのいくつ分で数値化できるという既習事項と関連づけて、かさについても単位を決めて、そのいくつ分で数値化できるという普遍単位のよさに気づき、かさの表し方を考え表現している。</p>	<p>L, dL, mLなどの普遍単位を用いてかさを数値化する必要性や、的確に表せることのよさに気づき、およその見当をつけて進んでかさを測定し、生活に生かそうとしている。</p>
B	<p>1Lますと1dLますを用いて、かさの測定ができる。また、簡単なかさの加減の計算ができる。</p> <p>決められた大きさの単位 L, dL, mLを用いると、かさを誰にでもわかるように正確に表せることや、かさを測る単位と、単位同士の関係 $1L=10dL$, $1L=1000mL$ を理解している。また、身の回りのものの大きさの見当をつけるなど、かさについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>単位の大きさを決めると、かさを数で表すことができるという普遍単位のよさに気づき、かさの表し方を考え表現している。</p>	<p>L, dL, mLなどの普遍単位を用いることのよさに気づき、およその見当をつけて進んでかさを測定しようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 かさの くらべ方 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な操作活動を通して、かさの比べ方を考え、単位の必要性に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●水筒などの容器に入る水などのかさの比べ方を考え、数値化する方法について話し合う。 ●コップ何杯分かを調べると、かさも数で表せることに気づく。 ●大きさの異なるコップでは比較できないことから、共通の単位の存在に気づく。 <p>☆「何ばい分」に対して、任意単位での数値化が必要なことに気づき、違いを数値化する方法を考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●実際にグループなどで比較させ、共通となる単位の必要性を実感できるようにする。 <p>【思】かさも単位を決めると数値化できることや、共通の単位があれば比べやすいことに気づき、かさの表し方について考えている。</p> <p>【主】かさを数値化する方法を考えようとしている。</p>
2 かさの あらわし方 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ●かさの単位(L)と、その書き方を知り、1Lますを用いてかさを測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単位の必要性から、かさを比べるのにますを使って、その何杯分かで表せることを知る。 ●1LますとLの書き方を知る。 ●1Lますを用いて、いろいろな容器に入る水のかさを測る。 <p>★身の回りで、「L」で表されている入れ物を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●はしが出たときどのように表したらよいかを考えさせ、次時へ結びつける。 <p>【知】1Lますを用いてかさを測定ができる。</p> <p>【知】共通単位(L)によって、数でかさを比べられることを理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますで測りきれないはしたのかさを測る方法を考える。 ●かさの単位(L)より小さい単位(dL)とその書き方を知る。 ●1L=10dLの関係がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●はしたの表し方を考え発表し合う。 ●1Lますで測ったはしたの水のかさを測る単位にdLがあることを知る。 ●1dLますの存在と「dL」の書き方を知る。 ●1dLが10杯分で1Lになることを、操作を通して理解する。 <p>☆はしたの量を表す単位の必要性を感じ、それについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●cmとmmの関係を想起させ、10等分することで下位単位ができることに気づくようにする。 <p>【知】1dLの意味と1Lとの関係を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますや1dLますを用いているいろいろな水のかさを測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますや1dLますを使って、いろいろな容器に入っている水のかさを測定する。 <p>★具体的な測定をするときには、見当をつけてからすることを意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lや1dLの量感を、操作を通して十分に培わせる。 <p>【主】L、dLなどの単位を用いることのよさに気づき、進んでかさを測定しようとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●1L=10dLの関係を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な容器で1dLますを作ることができることを知る。 <p>★自分で作った1dLますを使って身の回りにある入れ物を測る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますを10等分した1目盛りが1dLであることを確かめさせる。 <p>【知】1Lと1dLとの相互関係を理解している。</p>

2 かさの あらし方 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ●かさの単位換算を理解する。 ●かさの大小比較をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目盛りを読んで、複名数と単名数でかさを表す。 ●複名数で表されたかさを、大小比較することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●形式的な単位換算にならないように、1Lますや1dLますを使って確認させる。 【知】ますを使って測定したり、複名数と単名数で表したりすることができる。 【知】単位の仕組みを理解し、かさの大小を等号や不等号を使って表すことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●dLより小さいかさの単位 mLを知る。 ●mLの単位を生活の中で探し、1L=1000mL、1dL=100mLの関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●飲み物が入っていた容器に入る水のかさを測定し、小さなかさの単位「mL」の存在とともに、1mLという量の大きさを知る。 ●1000mLパックの入れ物のかさを、1Lますや1dLますで測って何杯分になるかを調べる活動を通して、1L=1000mL、1dL=100mLの関係を調べる。 ★身の回りで、「mL」で表されている入れ物を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●L、dL、mLという単位の量感や関係を身につけさせるために、具体的な操作活動の時間を十分に確保する。 【主】「mL」の単位を使っているものを、進んで身の回りから探そうとしている。 【知】1L=1000mL、1dL=100mLの関係を理解している。
3 かさの 計算 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●水のかさも加減できることを理解する。 ●加法や減法の計算のしかたがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2つの容器の水のかさを測って、その合計や違いを求める。 ●既習事項を生かして、計算のしかたを考え、単位に着目して計算の方法を説明する。 ●加法と減法の簡単な練習問題をする。 ☆単位をそろえて計算する方法に気づき、計算のしかたを考え、説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの加法を想起させ、同じ考えが使えるか考えさせるようにする。 【知】かさの加法性を理解し、単位をそろえると整数の計算と同じようにできることを理解している。 【知】かさの加減の計算ができる。
ま な び を い か そ う な ら な い こ と (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますと1dLますの目盛りを読み、単位を変える。 ●かさの単位換算をする。 ●かさの大小比べをし、不等号で表す。 ●かさの加減計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●理解が不十分な児童には、個に応じて助言する。特に、ますを用いた測定や単位換算の理解をしっかりと身につけさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1Lますと1dLますの目盛りを読み、単位を変える。 ●かさの単位換算をする。 ●かさの大小比べをする。 ●かさの加減計算をする。 ●かさを読み取り、和や差を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。
ふ か め よ う (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●油分け算に興味をもち、油分け算を通して、測定の理解を深め、楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●油分け算の意味を理解する。 ●既習内容から計算方法を駆使して、解決の方法を考え、説明する。 ☆他のやり方について考えようとする。 ☆この2つのカップ以外を使って、他の量でも測ることができないか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●汲んでは入れて戻す上手な計量を考え、測定の工夫を生かして考えさせる。 【主】油分け算を通して計算の楽しさを味わい、興味・関心をもって考えようとしている。

10 三角形と四角形 形をしらべてなかま分けしよう

<9月中旬～10月中旬・15ページ・12時間>

学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ), イ(ア), 内容の取り扱い(5), [数学的活動](1)ア, エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	ものの形の観察や構成・分類などの活動を通して、三角形や四角形を弁別したり、作図したりすることができる。直角の概念や、三角形・四角形の定義や性質を理解することができる。また、図形についての豊かな感覚をもつことができる。	ものの形についての観察や構成などの活動を通して、三角形や四角形について、分類し、分類した観点や分類した図形ごとの特徴を見出す力を養う。	日常事象の中から、身近な図形(三角形・四角形)を観察、分類することに取り組もうとする態度を養う。
A	図形の相違点や共通点に着目しながら、確実に三角形や四角形を弁別したり、作図したりすることができる。直角の概念や、図形の構成要素の特徴から三角形・四角形の定義や性質を理解している。 また、三角形や四角形の特徴を言葉や図などを用いて表現してとらえるなど、図形についての豊かな感覚をもつことができる。	ものの形についての観察や構成などの活動を通して、三角形や四角形について、違いに気づき分類し、図形の相違点や共通点に着目しながら、分類した観点や分類した図形ごとの特徴を言葉や図などを用いて表現している。	三角形や四角形をかいたり切ったり折ったりして、図形を観察、分類するとともに、身の回りから三角形や四角形を探そうとしている。
B	ものの形の観察や構成・分類などの活動を通して、三角形や四角形を弁別したり、作図したりすることができる。 直角の概念や、三角形・四角形の定義や性質を理解している。また、三角形や四角形の特徴をとらえるなど、図形についての豊かな感覚をもつことができる。	ものの形についての観察や構成などの活動を通して、三角形や四角形について、違いに気づき分類し、分類した観点や分類した図形ごとの特徴を見出している。	三角形や四角形をかいたり切ったり折ったりして、図形を観察、分類することに取り組もうとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 三 角 形 と 四 角 形 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●三角形や四角形に関心をもって、動物を囲む。 ●3本の直線で囲まれた形を三角形ということを知る。 ●4本の直線で囲まれた形を四角形ということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●動物を囲むために、点を直線で結んで、平面図形を構成することを知る。 ●囲み方の約束を決め、囲み方を考える。 ●キリンとゴリラ、ライオンを囲んでいる直線の数を調べ、三角形の定義について知る。 ●シマウマとカバ、ゾウを囲んでいる直線の数を調べ、四角形の定義について知る。 ☆「直線」、「囲まれた」の言葉を意識し、三角形や四角形でない図について検討し、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●できるだけ少ない直線で囲むことを理解させてからさせる。 ●いろいろな囲み方の中から、できるだけ少ない直線で囲まれたものを取り上げる。 【思】できるだけ少ない直線で囲むための点の位置を考えている。 【知】三角形と四角形の定義を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●3本の直線で囲まれた形、4本の直線で囲まれた形に着目して、三角形と四角形を弁別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三角形、四角形、閉じてない形、曲線をもつ形の中から、三角形、四角形を見つける。 ☆三角形や四角形でないものについて、その理由を考え、説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ●三角形や四角形の定義から図形を弁別させる。 【思】図形を分類し、分類した観点や分類した図形ごとの特徴を見出している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●頂点を決めて、三角形や四角形を作図することができる。 ●三角形、四角形の構成要素に頂点と辺があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●格子点を利用して、いろいろな三角形、四角形をかく。 ●用語「頂点」、「辺」を知る。 ●三角形や四角形の辺や頂点の数を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定規を活用させながら、三角形や四角形が作れるようにする。 【知】定義にしたがって三角形・四角形を作ることができる。 【知】三角形や四角形の辺や頂点の数がわかる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●四角形を分割して、三角形や四角形を作る。 ●三角形を分割して、三角形や四角形を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●四角形に1本の直線を引いて、2つの形を作る。 ●三角形に1本の直線を引いて、2つの形を作る。 ☆どのような引き方をしたのか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●三角形や四角形の定義から直線の引き方の見通しをもち、頂点を通るか通らないかを考えさせる。 【思】三角形、四角形の構成要素に着目して、分割する方法を考えている。
2 直 角 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●不定形の紙を折る操作を通して、直角の概念を理解する。 ●不定形の紙で作った直角や三角定規をもとに、身近な直角を探し、直角の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙を4つに折ってできた角の形を調べ、用語「直角」を知る。 ●身の回りから、直角を探す。 ●三角定規の1つの角は、直角になっていることを知る。 ●不定形の紙で作った直角や三角定規を使って、身近な直角を探す。 ★身の回りから直角になっている角を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どんな形の紙でも、4つに折ると直角ができることへの驚きを実感できるようにする。 ●三角定規の中にある直角について知らせる。 ●身の回りから直角を探させる。 【主】身の回りから直角になっている角をたくさん見つけ出そうとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●三角定規を使って直角をかき、直角の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●格子点を使って直角をかく。 ●三角定規を使って直角をかく。 ☆直角を確かめるには、三角定規を使うと便利なことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●格子点を使って直角をかかせる。 ●三角定規を使って直角をかかせる。 【知】直角を正確にかくことができる。

3 長方形と正方形 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ●紙を折って、長方形を作る。 ●直角に着目して、いくつかの四角形の中から長方形を弁別する。 ●長方形の定義を知り、その意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙を折って、直角を作るとどのような形になるのか調べる。 ●四角形の角を調べ、4つの角が直角な四角形を見つけ、長方形を理解する。 ●長方形の定義をもとに、いろいろな四角形の中から、定義にあてはまる形を見つける。 ★身の回りから長方形を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三角定規を用いて、四角形の角を調べさせる。 【知】長方形の定義を知り、その意味を理解している。 【知】いくつかの四角形から、長方形を見つけることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形の辺の長さを調べ、その性質を理解する。 ●工作用紙の方眼を利用して、長方形を作図する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ものさしを使ったり、長方形の紙を折ったりして、向かい合う辺の長さを比べる。 ●工作用紙の方眼を利用して、長方形を作図する。 ☆向かい合っている辺の長さがなぜ同じなのか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●複数の操作の結果をつなげ、長方形の性質を導かせる。 【思】長方形の辺の相等関係に着目して、性質を考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形から正方形を作り、角の大きさや辺の長さを調べる。 ●正方形の定義を知り、その意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形の紙を折って切り、正方形を作る。 ●作った正方形の角の大きさや辺の長さを調べる。 ●正方形の定義を知る。 ★身の回りから正方形を探したり、長方形から正方形を作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●折り重ねることにより、辺の長さが全て同じであることを確かめさせる。 【知】正方形の定義を知り、その意味を理解している。 【主】身の回りから、正方形の形のをたくさん探そうとしている。
4 直角三角形 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形や正方形から直角三角形を作る。 ●直角三角形の定義を知る。 ●三角形の角に着目して、直角三角形を弁別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長方形や正方形の紙を対角線で切ってできる三角形を調べ、直角のある三角形が直角三角形であることを知る。 ●いろいろな三角形から直角三角形を見つける。 ☆予想してから調べることを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三角定規を使って確かめさせる。 【知】直角三角形の定義を知り、その意味を理解している。 【知】いくつかの三角形から、直角三角形を見つけることができる。
5 もよう作り (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●格子点を利用して、長方形や正方形、直角三角形を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●格子点を直線で結び、長方形や正方形、直角三角形を作る。 ●作った図形に色をぬり、きれいな模様を作る。 ●互いに模様を見せ合い、美しさを鑑賞し合う。 ☆できたいろいろな模様を観察させ、基本単位の繰り返しの規則性や、その美しさについて考察し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●模様作りのため、同じ長方形や直角三角形ですき間なく敷き詰めると、綺麗な模様になることを確かめさせる。 ●三角定規を活用し、正確に作図させる。 ●互いの模様を見せ合う場を設定し、敷き詰め模様の中から、図形を見出す感覚を高めさせる。 【主】きれいな模様をたくさん作ろうとしている。

できるよくなったこと まなびをいかそう (1)	●既習事項の確かめをする。	●三角形，四角形の構成要素を確認する。 ●長方形，正方形，直角三角形を弁別する。 ●直角三角形，正方形の作図をする。	●既習内容について理解しているか確認する。 ●理解が不十分な児童には，個に応じて助言する。特に，作図の技能をしっかりと身につけさせる。
	●既習事項の理解を深める。	●いろいろな図形から，長方形，正方形，直角三角形を弁別する。 ●定義にあてはまる図形を指摘する。 ●長方形，正方形，直角三角形の特徴を確認する。	●観点を確認しながら指導し，必要に応じて前に戻り復習する。 ●弁別の問題では，三角定規などを使って，直角になっているかなどを確認させる。

11 かけ算(1)

かけ算の いみや しかたを 考えよう

<10月中旬～11月上旬・25ページ・17時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(イ), A(3)ア(イ)(ロ)(ハ)・イ(イ)(ロ), 内容の取扱い(4), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>「1つ分の大きさ」や「いくつ分」に着目し、乗法の式に表すことができる。</p> <p>乗法の意味を理解するとともに、乗法の答えは、同数累加と同じ答えになることを理解することができる。</p> <p>乗法九九を構成するとともに、2の段から5の段までの九九を唱えることができる。また、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。</p>	<p>乗法の用いられる場面を、具体物や図などを用いて表現し、もともになる大きさやそのいくつ分を考えて式に表す力を養う。</p> <p>乗法のきまりに着目して、乗法九九の構成を考えたり、乗法が用いられる場面を式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりする力を養う。</p>	<p>身の回りの事象から乗法で表される場面を進んで探したり、式を用いると、乗法が用いられる場面を簡潔に表せるよさに気づいたりして、乗法のきまりを使うよさがわかり、乗法九九を構成しようとする態度を養う。</p>
A	<p>乗法の意味を理解している。また、問題場面を絵や図に表し、「1つ分の大きさ」が「いくつ分」あるかを理解でき、全体の個数は加法で求められることを理解している。そして、図や式に表したり、式を読み取って図や具体的な場面に表現したりすることを通して、乗法が用いられる場面の数量の関係を理解している。</p> <p>問題場面を言葉、絵や図、式などを用いて多様に表現するとともに、絵や図から式、式から絵や図のように相互に表すことができる。</p>	<p>乗法の用いられる場面を、具体物や図などを用いて表現し、具体的な場面と結びつけてとらえ、もともになる大きさやそのいくつ分を考えて式に表している。</p> <p>被乗数と乗数、積の関係などの乗法のきまりに着目して、乗法九九の構成を考えている。また、乗法が用いられる場面を、具体物や図、式などに表現したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたり、絵や図などに表現したりしている。</p>	<p>絵や図を見て、乗法で表せる場面を進んで見つけようとしている。また、式を用いると、乗法が用いられる場面を簡潔に表せるよさに気づき、自分の身の回りの事象についても乗法で表せる場面を見出し、乗法を用いようとしている。</p> <p>乗法のきまりを見つけ、そのよさがわかり、進んで乗法九九を構成しようとしている。</p>
B	<p>問題場面を具体物や半具体物に置き換え、「1つ分の大きさ」、「いくつ分」をとらえて式を読むことができる。また、2の段から5の段までの九九を唱えることができる。</p> <p>乗法の意味及び答えの求め方を理解している。また、式に表したり、式を読み取ったりすることを通して、乗法が用いられる場面の数量の関係を理解している。</p>	<p>乗法の用いられる場面を、具体物や図などを用いて表現し、もともになる大きさやそのいくつ分を考えて式に表している。</p> <p>乗法九九の答えの並び方からきまりを見つけ、乗法九九の構成を考えている。また、乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。</p>	<p>絵や図をもとに、具体物や半具体物に置き換えて操作しながら、乗法で表せる場面を見つけようとしている。また、式を用いると、乗法が用いられる場面を簡潔に表せるよさに気づき、乗法を用いようとしている。</p> <p>乗法のきまりを使い、乗法九九を構成しようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 かけ算 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ●乗り物に乗っている人数が同じときは、1台分の人数と乗り物の数で全体の数を表すことができることがわかり、そのよさに気づく。 ●全体の数量を、「1つ分の大きさ」と「いくつ分」とでとらえる。 ●乗法の式の表し方と、読み方を知る。 ●乗法の記号「×」、「かけ算」という用語・意味について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●遊園地でいろいろな乗り物に乗っている場面を見て、それぞれの乗り物に乗っている全体の人数を求める。 ☆乗り物によって、乗り方がどのように違っているのかを考える。 ●飛行機やゴーカートやジェットコースターに乗っている人数を求める。 ●1台に4人ずつ3台分で12人を表すのに「$4 \times 3 = 12$」という式で書けることを知る。 ●「かけ算」の言葉を知り、乗法の意味について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の生活や挿絵などを参考にし、同じ数ずつのものを数えた経験などを話し合わせ、関心をもたせる。 【主】身の回りの事象の中で、同じ数ずつあるものの全体の数を、工夫して求めようとしている。 【思】同じ数ずつのものをまとまりで見ている。 【知】乗法の意味・式の書き方を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「1つ分の大きさ」や「いくつ分」の数に着目し、乗法の式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●チョコレート全部の数を求めるのに、箱の数とあと何がわかればよいか考える。 ☆「8個ずつ、3箱」というかたまりの見方で、全体の数を求める。 ●同じ数ずつ入っている場面を乗法の式で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ数ずつだとまとめて数えられるというよさに気づかせる。 【知】全体の数を、「1つ分の大きさ」と「いくつ分」とでとらえることができる。 【思】「1つ分の大きさ」というまとまりが「いくつ分」あるか考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●単位量のいくつ分ということ意識してブロックを並べ、総数を求める。 ●乗法の式と同数累加の式は、同じ答えになることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●8個ずつ6箱分の缶詰をブロックで表し、式を書いて総数を求める。 ●乗法の式に表して、ブロックに置き換えて答えを求める。 ●乗法の答えは、同数累加の答えと同じことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●缶詰とブロックを対応させながら、乗法のイメージを育てるようにする。 ●8×6の答えは、$8 + 8 + 8 + 8 + 8 + 8$の答えと同じになることを、ブロック操作を通して理解させる。 【思】具体物をブロックに置き換えて表し考えている。 【知】乗法の式と同数累加の式は答えが同じであることを理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●総数が決まっている場合について、単位量のいくつ分ということ意識して乗法の式に表す。 ●乗法の式で表せる場面を、カードに絵で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●12個のレモンを同じ数ずつ袋に入れる場合を考え、乗法の式に表す。 ☆身の回りから、乗法の式で表せる場面を探し、カードに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カードに絵と式で表現し、乗法の意味の理解を深める。 【思】1つ分の数やそのいくつ分を考えて式に表すことができる。 【主】乗法の式で表せる場面を、工夫して表現しようとしている。
2 かけ算と ばい (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●1個分、2個分、3個分は、1倍、2倍、3倍であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープの1個分、2個分、3個分のテープの長さを式で表し、答えを求める。 ●「倍」の言葉と意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープを切って、1つ分の長さ全体の長さを意識させる。 【知】倍の意味を理解している。

3 5 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱に5個ずつ入っているゼリーの、何箱分かの個数を求める場面を通して、5の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱に5個ずつ入っているゼリーの、何箱分かの個数を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 ●「九九」の意味を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●5とびの数え方を活用して答えを求めさせる。 【知】5の段の九九の構成を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●5の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●5の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●5の段の九九の唱え方を知る。 ●5の段の九九のカードを作り、覚える。 ●5の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●習熟に応じて、5の段の九九の絵をかく活動を取り入れる。 【知】5の段の九九を唱えることができる。
4 2 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●ケーキが2個ずつ乗っている皿の、何皿分かの個数を求める場面を通して、2の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ケーキが2個ずつ乗っている皿の、何皿分かの個数を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2とびの数え方を活用して答えを求めさせる。 【知】2の段の九九の構成を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●2の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●2の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2の段の九九の唱え方を知る。 ●2の段の九九のカードを作り、覚える。 ●2の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●習熟に応じて、2の段の九九の絵をかく活動を取り入れる。 【知】2の段の九九を唱えることができる。
5 3 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●三輪車のタイヤの数を求める場面を通して、3の段の九九を構成する。 ●3の段の九九の答えは、3ずつ多くなっていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●三輪車のタイヤの数を求める式を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 ●三輪車が1台増えると、タイヤの数は3個増えることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知】3の段の九九の構成を理解している。 【思】3の段の九九の答えは、3ずつ大きくなっていることに気づいている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●3の段の九九の呼称を知り、唱えることができる。 ●3の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3の段の九九の唱え方を知る。 ●3の段の九九のカードを作り、覚える。 ●3の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●九九を覚えると計算が速くできるという、九九のよさに気づかせるようにする。 【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 【知】3の段の九九を唱えることができる。

6 4のだんの九九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●1台に4個ずつタイヤをつけた自動車何台分かのタイヤの数を求める場面を通して、4の段の九九を構成する。 ●4の段の九九の答えは、4ずつ多くなっていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1台に4個ずつタイヤをつけた自動車の何台分かのタイヤの数を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 ●自動車が1台増えると、タイヤの数は4個増えることを知る。 	<p>【主】乗法のきまりを使い、乗法九九を構成しようとしている。</p> <p>【知】4の段の九九の構成を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●4の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●4の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4の段の九九の唱え方を知る。 ●4の段の九九のカードを作り、覚える。 ●4の段の九九を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●九九を使うと計算が速くできるという、九九のよさに気づかせる。 <p>【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。</p> <p>【知】4の段の九九を唱えることができる。</p>
7 きまりを見つけよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●2の段から5の段までの九九の式を見て、かけ算のきまりを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでに学習した2の段から5の段までの九九の式を書く。 ●2の段の答えと3の段の答えをたすと、5の段の答えになることに気づく。 <p>☆他にもきまりがないか考える。</p>	<p>【主】式を見て、かけ算のきまりを見つけようとしている。</p> <p>【思】式を横に見たり縦に見たりしながら、数の変化や規則性に着目している。</p>
8 カードあそび (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●九九の式と答えを別々に書いたカードを作り、答えとりや大きさ比べのゲームをしながら、2, 3, 4, 5の段の九九の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2, 3, 4, 5の段の乗法の式と答えのカードで、答えとりや大きさ比べのゲームをする。 	<p>【主】進んでゲームに参加し、九九の答えを速く正確に考えようとしている。</p>
まなびをいかにしよう できるよくなったこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法九九の計算をする。 ●文章問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法九九の計算をする。 ●文章問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。
ふかめよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法の式をつくったり、乗法の問題作りをすることで、身の回りの事象について考え、乗法についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆八百屋さんの場面から乗法の式をつくることができる。 ★身の回りの事象の中から、乗法になる問題を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●式で表現したり、問題を作ったりして、乗法の意味の理解を深める。 <p>【主】乗法の式で表せる場面を、工夫して表現したり、問題を作ろうとしたりしている。</p>

1 2 かけ算（2）

かけ算のきまりを見つけて九九を作ろう

<11月中旬～下旬・12ページ・11時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(イ), A(3)ア(ア)(イ)(ロ)(ハ)・イ(ア)(イ), 内容の取扱い(4), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	乗法九九を構成するとともに、6の段から9の段、1の段の九九を唱えることができる。また、乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	乗法のきまりに着目して、乗法九九の構成を考えたり、乗法が用いられる場面を式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりする力を養う。	乗法のきまりを使うよさがわかり、乗法九九を構成しようとする態度を養う。
A	乗法のきまりを用いて、手際よく九九を構成するとともに、6の段から9の段、1の段の九九を確実に唱えることができる。また、乗法が用いられる場面を、式に表したり、式を読み取ったりすることができ、作問などに生かすことができる。	被乗数と乗数、積の関係などの乗法のきまりに着目して、乗法九九の構成を考えている。また、乗法が用いられる場面を、具体物や図、式などに表現したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえ、絵や図などに表現したりしている。	乗法のきまりを見つけ、そのよさがわかり、進んで乗法九九を構成しようとしている。
B	乗法のきまりを用いて、九九が構成できる。また、6の段から9の段、1の段の九九を唱えることができる。また、乗法が用いられる場面を、式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	乗法九九の答えの並び方からきまりを見つけ、乗法九九の構成を考えている。また、乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。	乗法のきまりを使い、乗法九九を構成しようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 6 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱に6個ずつ入っているチーズの何箱分かのチーズの個数を求める場面を通して、6の段の九九を構成する。 ●乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱に6個ずつ入っているチーズの何箱分かのチーズの個数を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 ●6の段の九九を作る。 ●乗数が1増えると、答えは被乗数分だけ増えることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2の段から5の段までの考え方を活用して、6の段の乗法の答えの求め方を考えさせる。 【主】乗法のきまりを使い、乗法九九を構成しようとしている。 【思】乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることに気づいている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●6の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●6の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6の段の九九の唱え方を知る。 ●カードを作り、練習して覚える。 ●絵を見て式を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 【知】6の段の九九を唱えることができる。
2 7 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱に7本ずつ入っているサインペンの何箱分かのサインペンの本数を求める場面を通して、7の段の九九を構成する。 ●7の段では、乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えることを理解する。 ●7の段で分配法則が成り立つことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1箱7本入りのサインペンの何箱分かのサインペンの本数を乗法の式で表し、全体の本数を求める。 ●7の段の九九を作る。 ●乗数が1増えると、答えは被乗数分だけ増えることに気づく。 ●5×3の答えに2×3の答えをたすと、7×3の答えになることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6の段までの考えを使って、7の段の九九を構成させる。 【思】乗数の増え方と答えの増え方を関係づけて考えている。 【知】7の段の九九の構成を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●7の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●7の段の九九を用いて、問題を解決する。 ●乗法の交換法則が成り立つことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●7の段の九九の唱え方を知る。 ●カードを作り練習して覚える。 ●7の段の九九を使って、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 【知】7の段の九九を唱えられ、7の段の九九の適用場面に乗法を使うことができる。
3 8 の だ ん の 九 九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●テープ1人分が8cmのときの何人分かの長さを求める場面を通して、8の段の九九を構成する。 ●8の段の九九の構成を通して、答えの増え方や分配法則に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1人に8cmずつのテープをあげるとき、何人分かのテープの長さを乗法の式で表し、全体の長さを求める。 ●8の段の九九を作る。 ●乗数が1増えると、答えは被乗数分だけ増えることがわかる。 ●8×2の答えが、5×2と3×2をたした答えと同じになることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数が1増えると答えは被乗数分だけ増えることや、分配法則に気づかせる。 【思】7の段までの考え方をを用いて、8の段の九九を構成している。 【知】8の段の九九の構成を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●8の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●8の段の九九を用いて、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●8の段の九九の唱え方を知る。 ●カードを作って、練習して覚える。 ●8の段の九九を使って、問題を解決する。 ●8の段の九九の場面を図で表す。 ●8×2の答えに8×3の答えをたすと、8×5の答えになることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 【知】8の段の九九を唱えられ、8の段の適用場面に使うことができる。

4 9のだんの九九 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●1 チーム9人の野球チームで何チームかの人数を求める場面を通して、9の段の九九を構成する。 ●9の段の九九の構成を通して、答えの増え方や分配法則に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1 チーム9人で野球をするときの、チーム数分の人数を乗法の式で表し、全体の人数を求める。 ●9の段の九九を作る。 ●乗数が1増えると、答えは被乗数分だけ増えることがわかる。 ●9×3で、9を5と4に分けて考えられることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●答えの増え方や、分配法則など、気づいたことを自由に発表させる。 【思】8の段までの考え方をを用いて、9の段の九九を構成している。 【知】9の段の九九の構成を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●9の段の九九の呼称を知り、唱える。 ●9の段の九九を用いて、問題を作り、解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●9の段の九九の唱え方を知る。 ●カードを作り、練習して覚える。 ●9の段の九九の場面を絵で表す。 ●絵を見て、問題を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】乗法が用いられる場面を、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりしている。 【知】9の段の九九を唱えられ、9の段の適用場面に使うことができる。
5 1のだんの九九 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●3の段、2の段の九九の答えからケーキの数を類推して、1の段の九九を構成する。 ●1の段の九九の呼称を知り、唱える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あめやみかん、ケーキを1人に□個ずつ4人分用意するときの、ケーキの個数を乗法の式で表し、全体の個数を求める。 ●1の段の九九を構成する。 ●1の段の九九の唱え方を知る。 ●カードを作り、練習して覚える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3の段、2の段の乗法の式を作りながら、1の段の意味を理解させる。 【知】1の段の九九の構成を理解している。 ●一が「いち」ではなく「いん」となることから、いろいろな場面で練習するようにさせる。 【思】1に何をかけても、答えは乗数と同じになることを見出している。
どんな計算になるのかな (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の仕組みを読み取って加法や減法、乗法の演算決定をし、乗法の理解を深める。 ●具体物の操作をもとに、解き方を絵や図、式や数字、言葉を使ってわかりやすく説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題の絵を見ながら場面を理解する。 ●問題の仕組みを調べて、わかっていることやわからないことなどはっきりさせる。 ●図にかきながら演算を決めて、文章題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗数が先に出ている問題について間違いがある場合は、乗法の意味に戻って考えさせる。 【思】問題の仕組みを絵や図を用いて表現し、考えている。
まなびをいかそう できるよになったこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法九九の計算練習をする。 ●乗法九九適用の文章題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●乗法九九は、確実な定着を図るため繰り返し指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法九九の計算練習をする。 ●乗法九九適用の文章題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●乗法九九は、確実な定着を図るため繰り返し指導を行う。

13 かけ算(3) 九九のきまりを見つけていかそう

<11月下旬～12月中旬・9ページ・7時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(イ), A(3)ア(イ)(ロ)(ハ)・イ(イ)(ロ), 内容の取扱い(4), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成することができる。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解することができる。	九九表を観察して、乗法についての性質を見出したり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えたりする力を養う。	乗法のきまりや、九九表を活用して、楽しいゲームを工夫したり、身近な問題に生かそうとしたりする態度を養う。
A	乗法のきまりを用いて、九九表を手際よく完成させることができる。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解し、九九表のきまりを理解している。	九九表を観察して、被乗数、乗数、積の関係や、交換法則などの乗法についての性質を見出している。 また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫している。	九九表を活用して、進んできまりを見つけたり、楽しいゲームを工夫したり、身近な問題に生かそうとしたりしている。
B	乗法のきまりを用いて、九九表を完成させることができる。 被乗数、乗数、積の関係や交換法則を理解している。	九九表を観察して、乗法についての性質を見出している。また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えている。	九九表を活用して、きまりを見つけたり、ゲームをしたりして、身近な問題に生かそうとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 かけ算九九のひょう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●各段の九九を1枚の表にするための工夫を通して、九九表の仕組みを理解し、九九表を完成する。 ●九九表をもとに、被乗数、乗数、積の関係を確かめたり、いろいろなきまりや特徴を見つけ出したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4, 16, 30 はどんな乗法の答えなのかを考える。 ●乗法九九の答えを表に書く。 ☆九九表から、いろいろなきまりや特徴を考え、発表する。 ・表から、乗数が1増えると、答えはいくつ増えるか ・答えの同じところ ・数の並び方 	<ul style="list-style-type: none"> ●表の仕組みについて十分理解させてから表作りに取り組みさせるようにする。 ●着眼点と内容を明確にして発表をさせる。 【知】九九表の仕組みを理解している。 【思】九九表のよさに気づき、九九のきまりや特徴を見出している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●九九表や具体物の操作をもとに、乗法の交換法則を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●被乗数が5(5の段)の答えと、乗数が5の答えを比べる。 ●答えが同じになる理由を考え発表する。 ●交換法則を用いて問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】被乗数と乗数に着目して、式や図を用いて表現し、答えが同じになる理由を考えている。
2 かけ算九九をつかって (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●チョコレートの総数の数え方について、既習の乗法九九を活用して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆30個のチョコレートの数を数えるときの数え方を説明する。 ●友だちの式の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法九九を活用して、チョコレートの数え方を考えさせる。 ●他者の式の意味についても考えさせる。 【思】乗法九九を想起し、場の状況を考えながら、乗法九九を生活場面で活用している。
3 九九をこえたかけ算 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●乗数が九九をこえた乗法について、乗法のきまりや具体的な操作をもとに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロックの数を求める式を考える。 ●既習事項を活用して、3×12のブロックの数を求める。 ●分配法則や乗法のきまりを使って、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法の意味を振り返らせることにより、立式をさせる。 ●既習事項を想起させながら、ブロックの数を求めさせる。 【思】簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●被乗数が九九をこえた乗法について、乗法の分配法則や九九表で見つけたきまり、具体的な操作をもとに考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロックの数を求める式を考える。 ●既習事項を活用して、12×3のブロックの数を求める。 ●分配法則を使って、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法の意味を振り返らせることにより、立式をさせる。 ●既習事項を想起させながら、ブロックの数を求めさせる。 【思】簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えている。

まなびをいかそう できるよつになつたこと (1)	●既習事項の確かめをする。	●九九表のきまりを使って、問題を解く。 ●乗法のきまりを使って問題を解く。	●既習内容について理解しているか確認する。 ●時間があれば、カードを利用して計算についての習熟を図る。
	●既習事項の理解を深める。	☆問題を理解し、答えを見つける。	●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●全ての式を計算させるのではなく、見当をつけてから問題を解くようにさせる。
ふかめよう (1)	●九九の答えを使って、直線を引き、その結果から各段の関連を見つけることができる。 ●乗法九九を使った模様作りを通して、かけ算についての理解を深める。 ●折り込みの「かけ算ゲーム①」や「かけ算ゲーム②」のしかたを理解し、楽しみながらゲームをする	●3の段を使って、一の位の数字を直線で引く。 ●好きな段から同じ方法でやってみる。 ●結果を話し合う中から理由を考える。 ●かけ算九九の模様作りをし、気づいたことを話し合う。 ●折り込みの「かけ算ゲーム①」, 「かけ算ゲーム②」のルールを理解し、ゲームを楽しむ。	●一の位の数を間違えないように直線を引かせる。 ●模様が一緒になる段があることに気づかせる。 【思】 同じ模様ができている理由を考えている。 【思】 乗法九九を活用した模様作りやゲームを通して、乗法の面白さや不思議さに気づいている。

14 分数

1つ分を数であらわして考えよう

<12月中旬・8ページ・4時間>
学習指導要領との関連 A(1)ア(ハ)

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	等分してできる部分の大きさを、分数を用いて表すことができる。 いろいろな分数の表し方とその意味を理解することができる。	具体物を等分することによって、様々な大きさの分数を考える力を養う。	分数の意味や表し方に関心を持ち、進んで活用しようとする態度を養う。
A	もとの大きさを等分し、その1つ分を分数で表すことができる。 いろいろな分数の表し方とその意味を理解し、数についての理解を深めることができる。	具体物を様々な大きさに等分することによって、分数への表し方や大きさを考えている。	分数の表し方のよさに気づき、進んで活用しようとしている。
B	等分された大きさを見て、分数で表すことができる。 いろいろな分数の表し方とその意味を理解している。	もとの大きさを何等分したのかをもとに、分数への表し方や大きさを考えている。	分数の表し方に興味を持ち、大きさを表すときに活用しようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
分数 (3)	●分数の意味と表し方を理解する。	●折り紙を同じ大きさに2つに折る。 ●用語「分数」と、その書き表し方を知る。	●折り紙の折り方の多様性を理解する。 ●分数の書き方をていねいに教える。 【知】 分数の意味と書き方を理解している。
	●分数の意味と表し方の理解を深める。	●折り紙をいろいろな方法で1/4に折る。 ●1/4の意味と書き方を知る。	●1/4の折り方を工夫させる。 【知】 4等分された1つ分の大きさを分数で表すことができる。
	●いちごの乗っているケーキを同じ大きさに切る活動などを通して、分数の意味と表し方の理解を深める。	●同じ大きさに切ったケーキ1つ分の大きさとそのケーキに乗っているいちごの数を求める。 ●同じ大きさに切ったケーキともとのケーキの関係を考える。	●ケーキという具体物をもとに考え、乗法や除法の見方の素地となるよう意識して行う。 【思】 もとの大きさを何等分したのか、その逆の、何等分したものを何倍したかなど、分数の表し方や大きさを考えている。
できるようになったこと (1)	●既習事項の確かめをする。 ●もとの大きさが違うと、同じ1/2でも大きさが変わることに気づく。	●色のついたところの大きさをもとの大きさと比べて、求める。 ☆24個のボールが入った箱について、同じ大きさに分ける方法を考える。	●既習内容について理解しているか確認する。 ●同じ1/2でも、大きさが違う理由を考えさせる。

かつどう！！

<12月下旬・2ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●箱の中のチョコレートの並び方を乗法の式を使って相手に伝える。	●箱の中の空いている部分を乗法の式で表現する。	【思】箱の中のチョコレートの並び方を乗法の式で表現する方法を考えている。

15 時こくと 時間 (2)

時こくや 時間を 読んで もとめよう

<1月上旬・6ページ・3時間>
学習指導要領との関連 C(2)

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	時刻と時間の違いや、1時間=60分、1日=24時間の関係を理解し、時間や時刻を、時計や帯時計で求めることができる。	時計や帯時計の目盛りをもとに、長針や短針の位置関係に着目して時間や時刻を調べる力を養う。	日常生活の場面に応じた時刻や時間を読み、自分の生活に生かそうとする態度を養う。
A	時間と時刻の違いを正しく理解している。また、60進法の考えをもとに、必要な時間や時刻を正確に求めることと正しく単位換算ができる。	時間と分の関係が60進法に基づいていることに気づき、言葉や図を用いて表現して時間や時刻について考えている。	身の回りでは、様々な場面で時刻や時間が表されていることに関心を持ち、日常生活の中でも、時間と時刻を使い分けながら用いようとしている。
B	必要な時間や時刻を求めることができる。また、単位換算ができる。時間と時刻の違うことと1時間=60分、1日=24時間の関係について理解している。	長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べている。	時計に関心を持ち、日常生活の中でも、時間と時刻を使い分けようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
時間の計算 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●ある時刻から時間(何分前や何分後など)を差し引いた時刻を求める。 ●時刻と時間を生活の場面で正しく使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時計の文字盤を見ながら、ある時刻から何分後の時刻や、ある時刻からある時刻までの時間を求める。 	<p>【思】長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時間や時刻を調べている。</p> <p>【知】時計の文字盤を見ながら、時刻や時間を求めたり、時刻を時計の文字盤に表したりすることができる。</p>
できるようになったこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時計の文字盤をもとに、時間や時刻を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。
ふかめよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●時刻や時間を用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生活場面の時間や時刻についての問題を解く。 	<p>【主】日記の場面について、工夫して表現したり、よりよい表現方法を考えようとしている。</p>

**16 10000までの数
数のあらし方やしくみをしらべよう**

<1月中旬・12ページ・6時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(7)(イ)(ウ), 内容の取扱い(1)

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	4位数までの数を書いたり読んだりすることができる。 4位数までの数の表し方, 大小, 順序, 相対的な大きさなどを理解し, 数についての豊かな感覚をもつことができる。	十進位取り記数法の仕組みに気づき, 数の相対的な大きさをとらえる力を養う。	10ずつまとめて数えることや十進位取り記数法のよさに気づき, 10000までの数を進んで用いようとする態度を養う。
A	十進位取り記数法の仕組みをもとに, 10000までの数について, 数えたり書き表したりすることができる。 3位数の数系列の理解をもとに, 4位数の系列, 順序, 大小, 相対的な大きさなどを理解し, 数についての豊かな感覚をもつことができる。	具体的なものの個数を数える活動を通して, 十進位取り記数法の仕組みをもとに, 言葉や図を用いて表現し, 4位数の表し方を考えたり, 数の相対的な大きさをとらえたりしている。	具体物を用いて10のまとまり, 100のまとまり, 1000のまとまりを作るなど, 十進位取り記数法のよさに気づき, 進んで10000までの数を数えたり, 日常生活の中で用いたりしようとしている。
B	4位数までの数を書いたり読んだりすることができる。 数直線上に表されている数を通して, 4位数の系列, 順序, 大小, 相対的な大きさなどを理解し, 数についての豊かな感覚をもつことができる。	具体的なものの個数を数える活動を通して, 十進位取り記数法の仕組みをもとに, 4位数の表し方を考えたり, 数の相対的な大きさをとらえたりしている。	具体物を用いて10のまとまり, 100のまとまり, 1000のまとまりを作ることのよさに気づき, 10000までの数を数えたり, 用いたりしようとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
1 1000 より 大きい 数の あらし 方 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ●ペットボトルのふたの数の数え方を考える。 ●二千という数を理解する。 ●4位数の読み方と書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ブロックの数を数えることを通して、二千という数を理解する。 ●ブロックの数を数えることを通して、4位数の読み方や書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の定着が不十分なときは位取り板を活用する。 【主】ブロックの数を工夫して数えようとしている。 【知】4位数を読んだり書いたりすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●空位のある4位数の読み方と書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙の数を位取り表に表し、空位のある数について理解する。 ●空位のある4位数を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●空位のある3位数の読み方と書き方を想起させる。 【知】空位のある4位数を読んだり書いたりすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●数の相対的な大きさについて理解する。 ●数を読んだり、数字で書いたりする。 ●4位数の数構成を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆2300を、10や100を単位としてとらえる。 ●4位数を読んだり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】4位数について、十進位取り記数法の考えをもとに、数の相対的な大きさをとらえている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●数直線上の数を読んだり、数直線上に数を表したりすることができる。 ●1000が10個集まると1万になることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数直線上の数を読む。 ●数直線上に数を表す。 ●1000が10個集まると1万になることを知る。 ●1000を1目盛りにした数直線作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1000までの数を想起させ、考えさせる。 【知】10000は、1000を10個集めた数ということを理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●4位数の大小を比較する。 ●4位数の順序、系列を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4位数の大小を比較する。 ●4位数の順序、系列を理解する。 ●数の小さい順に、線で結ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】数直線の1目盛りがいくつになるかを、数の相対的な大きさに目を向けて考えている。
ま な び を い か そ つ (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4位数を読んだり書いたりする。 ●4位数の数構成の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●位取り板を利用して、確かめさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4位数の数構成の問題を解く。 ●10000までの数の相対的な大きさをとらえる問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●十分定着していない場合は、位取り板や数カードを用いた操作を繰り返す、定着を確実にする。

ふりかえろう つなげよう

<1月下旬・2ページ・1時間>
学習指導要領との関連

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●工作用紙を使った活動を通して、十進位取記数法のよさを感じ取る。	●100マスの工作用紙に模様をかき、並べる。	【知】100マスが10個集まると1000、100個集まると10000になることを理解している。

17 長さ(2)

長い長さのくらべ方やあらわし方を考えよう

<1月下旬~2月上旬・8ページ・5時間>
学習指導要領との関連 C(1)

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>ものさしを用いて、mを単位として測ったり、簡単な長さの加法、減法の計算をしたりすることができる。</p> <p>より長いものの長さを表す単位mを知るとともに、長さについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え表現したり、1cmより短いものの長さや長いものの長さの表し方や、長さの加減のしかたを考えたりする力を養う。</p>	<p>普遍単位(m)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを測定しようとする態度を養う。</p>
A	<p>ものさしを用いて、mを単位として長さを手際よく測ることができる。また、単位換算をしながら簡単な長さの加法、減法ができる。</p> <p>長さの単位mを知るとともに、測るものに応じて適切に測定する方法を理解している。また、身の回りのものの長さの見当をつけるなど、長さについての豊かな感覚をもつことができる。</p>	<p>より長い単位の必要性を感じ、長さに適した測り方や表し方を考えている。また、単位の関係に着目して、長さの計算方法を考え表現している。</p>	<p>長さをより便利に表すために、普遍単位(m)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを、長さの見当をつけてから測定しようとしている。</p>
B	<p>ものさしを用いて、mを単位として長さを測ることができる。また、簡単な長さの加法、減法ができる。</p> <p>長さの単位mを知るとともに、測定の方法を理解している。また、身の回りのものの長さの見当をつけるなど、長さについての感覚をもつことができる。</p>	<p>より長いものの長さの表し方を考え表現している。また、長さの加減のしかたを考えている。</p>	<p>普遍単位(m)を用いるよさに気づき、身の回りのものの長さを測定しようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
メートル (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●長さの単位メートル(m)を知る。 ●1m=100cm の関係を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●両手を広げた長さを紙テープに移し、30cm のものさしで測る。 ●1m や 1m=100cm を知る。 ●1m ものさしをもとにして、115cm = 1m15cm であることを確かめる。 	<p>【主】長い長さを 30cm ものさしで測ると、測り継ぎの不便さがあることから、1m ものさしのよさを実感しようとしている。</p> <p>【知】 m と cm の単位の関係を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●1m ものさしを使って測定した長さを、複名数や単名数で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1m ものさしを使って測定し、複名数で表現する。 ●複名数で表現された測定値を単名数で表現し直し、比べる。 ●1m の長さになるように見当をつけて紙テープを切り、ものさしで確かめる。 	<p>【知】 長さを複名数や単名数で表すことができる。</p>
長さの計算 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●1m=100cm を用いて、m と cm の複名数で表された長さの加減をする。 ●m 単位の加減も同様にできることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●m と cm の複名数で表された長さの加減の方法を考える。 ●長さの加減の計算を練習する。 	<p>【思】 長さの加減を、既習事項を使っていろいろな考え方で計算している。</p> <p>【知】 同じ単位のところをそろえて加減することを理解している。</p>
まなびをいかに できるよ うになっ たこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な単位を選ぶ。 ●長さの大小比較をする。 ●複名数で示された長さの計算をする。 ●長さを使った文章問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●理解不十分な児童には、個に応じた助言する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数直線でテープの長さを読み取り、複名数や単名数で表す。 ●複名数で示された長さの計算をする。 ★身の回りのものの長さを、予想を立ててから測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。
ふかめよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな長さのテープ(1m, 10cm, 1cm)を用いて、身の回りの事象について考え、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆テープ(1m, 10cm, 1cm)を使って、長さを測る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●長さをどのように測ったかについて、式や言葉を使うことができるように支援する。 <p>【思】 1m, 10cm, 1cm のテープを組み合わせ、適切な長さを説明している。</p>

ふりかえろう つなげよう

<2月上旬・2ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●身の回りにあるものの長さを調べて、mm, cm, m の関係を整理してまとめる。	●身の回りにあるものの長さを調べ、どのような単位が使われているか、調べる。 ●調べた長さについて、表記されている単位を他の単位で表現できるか考える。	●身の回りのものの長さに興味をもたせ、測定しようとする態度を養いたい。 【知】mm, cm, m の単位の間係を理解している。

18 たし算とひき算 図をつかって計算のしかたを考えよう

<2月上旬～下旬・16ページ・11時間>

学習指導要領との関連 A(2)ア, 内容の取扱い(2)・(3), [数学的活動](1)エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	<p>テープ図で数量の関係をとらえ、立式し、計算することができる。</p> <p>テープ図を用いると数量の関係がよくわかることや加法と減法の相互関係を理解することができる。</p>	<p>数量の関係を図や式などを用いて表現し、数量の関係を考える力を養う。</p>	<p>数量の関係を絵や図に表し、関係をとらえやすくして式に表そうとする態度を養う。</p>
A	<p>逆思考の問題を解決する際に、加減の相互関係をテープ図に表して問題の数量の関係を理解し、立式して正しく計算できる。また、□を使った式の答えを、計算で求めることができる。</p> <p>数量の関係を表したテープ図から、加法と減法は逆の関係になっているといった加法と減法の相互関係や、減法同士の間関係を理解している。</p>	<p>数量の関係を言葉や数、式、図を用いて表現し、加法と減法の相互関係の説明のしかたを考えている。また、テープ図から数量の関係をつかみ、問題作りに生かすことを考えている。</p>	<p>問題場面に応じて絵や図を選び、そのよさを考えて用いようとしている。</p> <p>数量の関係をテープ図に表すと、加減の相互関係がとらえやすくなることに気づき、進んで演算決定に用いようとしている。</p>
B	<p>逆思考の問題を解決する際に、加減の相互関係をテープ図に表して立式し、計算できる。</p> <p>数量の関係を表したテープ図から、加法と減法は逆の関係になっているといった加法と減法の相互関係を理解している。</p>	<p>加法や減法の数量の関係を言葉や数、式、図を用いて表現し考えている。</p>	<p>絵や図のよさを考えて用いようとしている。</p> <p>数量の関係をテープ図に表し、加減の相互関係から演算決定に用いようとしている。</p>

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
たし算とひき算 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を様々な絵や図に表現し、それらの比較を通して、テープ図のよさを理解する。 ●文章題の場面を理解し、テープ図から立式し、問題を解決する(加法の合併場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題を読んで、どんなことがわかっているか、たずねていることは何かを理解するために、具体物を図にかき表して、関係をはっきりさせる。 ●様々な図に表したのを見て、それぞれの図のよいところを話し合う。 ●文章題を読んで、たずねていることは何かを考え、その数を□で表すことを理解する。 ●問題場面をテープ図で表して立式し、既習の筆算を用いて、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●題意にあっていれば、どのような絵や図にもよさがあることを確かめ、そのよさを共有する。 【思】様々な絵や図のよさを比較し、テープ図は3つの数の関係がわかりやすいことを見出している。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から立式し、問題を解決する(加法の増加場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題を読んで、たずねていることは何かを考える。 ●わかっていることは何かを考える。 ●問題場面をテープ図で表して立式し、既習の筆算を用いて、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の順番とテープ図を表す順番とがそろっていることを確認する。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から立式し、問題を解決する(減法の求残場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題を読んで、たずねていることは何かを考える。 ●わかっていることは何かを考える。 ●問題場面をテープ図で表して立式し、既習の筆算を用いて、答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の順番とテープ図を表す順番とがそろっていることを確認する。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から演算を決めて立式し、問題を解決する(減法の求差場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2量の大小関係を読み取り、差がわかるようにテープ図に表す。 ●立式し、既習の筆算を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の順番とテープ図を表す順番とがそろっていることを確認する。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。 【知】違いや、どちらが何個多いかが読み取れるテープ図の表し方を理解している。
	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から演算を決めて立式し、問題を解決する(減法の求大場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2量の大小関係を読み取り、差がわかるようにテープ図に表す。 ●立式し、既習の筆算を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の順番とテープ図を表す順番とがそろっていることを確認する。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から演算を決めて立式し、問題を解決する(減法の求小場面)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2量の大小関係を読み取り、テープ図に表す。 ●立式し、既習の筆算を用いて問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の順番とテープ図を表す順番とがそろっていることを確認する。 【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。

たし算とひき算 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ●文章題の場面を理解し、テープ図から演算を決めて立式し、問題を解決する(異種のもの)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いすと人を対応させて、人数の関係を図に表し、和を求める。 ●立式し、既習の筆算を用いて問題を解決する。 	<p>【知】文章を読んでテープ図をかき、求めることは何かを考えて立式できる。</p> <p>【思】いすの数を、人数に置き換えて考えている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の表現は加法(減法)の形であるが、計算は減法(加法)を用いて解くことができる。 ●テープ図を読んだり式を比較したりすることを通して、加法と減法は逆の関係になっていることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆加法(減法)の表現になっている場面をテープ図に表し、わかっている量と求める量をはっきりさせる。 ☆加数に□を使った加法(減法)の式を作る。 ☆図に数を書き入れながら、減法(加法)の計算で答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープ図と計算を関連付けたり、□を使った式と実際の計算を比べたりして、加法と減法の相互関係を説明できるようにする。 <p>【知】問題文は加法(減法)の表現でも、答えを求める計算は、減法(加法)を用いる場面であることを理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●減法適用の場面で、未知の減数を求めるのに、減法を用いて解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆減法の表現になっている場面をテープ図に表し、わかっている量と求める量をはっきりさせる。 ●減数に□を使った減法の式を作る。 ●図に数を書き入れながら、減法の計算で答えを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●なるべく自力でテープ図がかけられるように指導する。また、減法の計算の確かめに、減数と差を入れ替えた減法が使えることにも触れる。 <p>【知】減法適用の場面で、未知の減数を求めるのに減法を使うことや、減数と差を入れ替えた減法の式の間接関係を理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●テープ図から、適切な問題作りをすることで、加法と減法についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆テープ図から加法と減法の式を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題を作ることで、加法と減法の意味の理解を深める。 <p>【主】テープ図で表された場面を、工夫して表現したり、問題を作ろうとしたりしている。</p>
できるようになったこと まなびをいかそう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープ図をもとに、加法や減法を用いて、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープ図をもとに、加法や減法を用いて、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。

19 しりょうのせいり せいりのしかたやまとめ方を考えよう

＜3月上旬・3ページ・1時間＞
学習指導要領との関連 D(1), [数学的活動](1)イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる。	データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて、考える力を養う。	身の回りの事象に関心を持ち、データを整理する観点を決め簡単な表やグラフに表したり、表やグラフから特徴をとらえたりしようとする態度を養う。
A	身の回りにある数量を分類整理するという目的をもって自分で観点を選び、表やグラフを表すことができ、その表やグラフを読み取ることができる。	身の回りのことについて、自分で整理する観点を取捨選択し、表やグラフに表してデータの特徴を読み取り、そのデータについて考えている。	表やグラフに表すことで、わかりやすく、見やすくなることに気づき、表やグラフに表そうとしている。
B	身の回りにある数量を分類整理するために、簡単な表やグラフを表したり読み取ったりすることができる。	身の回りのことについて、表やグラフに表してデータの特徴を読み取り、そのデータについて考えている。	表やグラフに表すよさに気づき、身の回りのことを進んで表やグラフに表そうとしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
しりょうのせいり (1)	●身の回りの事象について、データの特徴に着目して、簡潔に表現したり考察したりすることができる。	●データを表に表すことができる。 ●表をもとにグラフに表すことができる。 【発展】男女に層別した表からわかることを話し合う。	●目的を確認するとともに、表とグラフを見比べてみるように声かけを行う。 【知】目的をもって、表やグラフを作ることができる。

20 はこの形 どんな形でできているか しらべよう

<3月上旬～中旬・9ページ・5時間>
学習指導要領との関連 B(1)ア(カ)

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	箱の形の面を写し取り，開いた形に並べたり，構成・分解したりしながら，もとの箱の形に作り上げることができる。箱の形，さいころの形の特徴や性質を理解することができる。	箱の形について，構成要素をもとに分類し，分類した観点や分類した形の特徴を見出す力を養う。	身近にある箱を直観的に分類したり，構成要素に着目し，特徴を進んで調べたりしようとする態度を養う。
A	ばらばらになった箱の面を，面や辺の位置関係に着目しながら並べ，もとの箱の形に作り上げることができる。箱の形，さいころの形の特徴及び面や辺の形，数などを理解するとともに，2つの共通点，相違点を理解している。	箱の形について，構成要素をもとに分類し，分類した観点や分類した形の特徴を見出し，言葉や図を用いて表現している。	身近な箱に目をつけ，形の違いを見つけたり，面を写し取って同じ箱を作ろうとしたり，構成要素に着目したりしようとしている。
B	ばらばらになった箱の面を，試行錯誤しながら並べ，もとの箱の形に作り上げることができる。 箱の形，さいころの形の特徴及び面や辺の形，数などを理解している。	箱の形について，構成要素をもとに分類し，分類した観点や分類した形の特徴を見出している。	身近な箱に目をつけ，形の違いを見つけたり，面を写し取って同じ箱を作ろうとしたり，構成要素を調べようとしていたりしている。

小単元	ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点と評価の観点
はこの形 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ●箱の形の面を写し取る活動を通して、箱を構成する面の形や面の数を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●箱を観察し、きれいな箱を作るために必要な部品を考える。 ●箱のすべての面を厚紙に写し取って、切り取る。 ●切り取った面の形や数を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●面のつながりは、切り取った面を箱にあてて考えさせる。 ●箱の6つの面を写した紙を並べ、切り開いた図になる場合を予想させ、いろいろと試させる。 <p>【知】箱の形は6つの面で構成されていることを理解している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●箱の形を構成する6つの面のつながり方がわかる。 ●開いた形に並べた面に好きな絵をかき、きれいな箱の形を作る。 ●いろいろな面を組み合わせる活動を通して、箱の形を構成する面の特徴や並べ方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●切り取った6つの面を、切り開いた形に並べる。 ●並べ方を変え、箱の形になる開いた形をいろいろ考える。 <p>☆箱の形を再構成し、面と面のつながりのきまりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●箱の面のつながりに気をつけて並べ、好きな絵をかき。 ●開いた図を組み立てる。 <p>☆面の数と形に着目して、組み立てると箱の形ができる場合を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●向かい合う面、重なり合う辺を意識してつなぎ合わせ、箱の形を組み立てさせる。 ●まず念頭で考えさせたあと、実際に操作をさせる。 <p>【知】面のつながりを考えながら、箱の形ができるように面を並べることができる。</p> <p>【主】箱の形の面のつながりに気をつけて絵をかき、きれいな箱の形を作ろうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●ひごと粘土で箱の形を作り、頂点と辺の数や特徴を調べる。 ●箱の形の構成要素(面、辺、頂点)に着目し、その特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実際に、ひごと粘土で箱の形を作る。 ●辺の数と特徴を調べ、まとめる。 ●頂点の数と特徴を調べ、まとめる。 ●「面」、「辺」、「頂点」の用語を知る。 ●構成要素の数を調べる。 <p>☆さいころの形をした箱について、面の数、辺の数や頂点の数を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ひごと粘土で箱を作らせる場合、ひごの長さについて考えられるようにする。 <p>【思】箱の形について、構成要素をもとに分類し、その特徴を見出している。</p> <p>【知】箱の形やさいころの形はすべて辺が12本、頂点が8つ、面が6つあることを理解している。</p>
まなびをいかにできるようになったこと (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●箱の形の構成要素を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習内容について理解しているか確認する。 ●問2については、できる限り念頭で考えさせたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●箱の形の構成要素を確認する。 <p>☆未完成の展開図に面をつけて、箱の形が作れる展開図にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●観点を確認しながら指導し、必要に応じて前に戻り復習する。 ●向かい合う面、重なり合う辺を意識させ、展開図を考えさせる。
ふかめよう (1)	<ul style="list-style-type: none"> ●指定された方眼用紙から、ふたのない箱を作るための面を切り出す活動を通して、身の回りの事象について考え、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ふたのない箱の、それぞれの面の大きさを考える。 <p>☆指定された方眼用紙から、面を切り抜く方法を考える。</p> <p>☆実際に面を切り抜き、ふたのない箱を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●たなど道具箱をよく観察させ、道具箱のそれぞれの面の大きさについて考えさせる。 ●方眼用紙から、5つの面を切り抜く方法を考えさせる。 <p>【思】たなど道具箱を観察し、道具箱の面の大きさを考えている。</p>

21 2年のまとめ
2年のふくしゅうをしよう

<3月中旬・4ページ・2時間>

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	既習の用語や定義、性質を理解することができる。 既習の計算や作図が適切にできる。	既習の見方・考え方を確かめたり、その関係を考えたりする力を養う。	2年で学習したことに進んで取り組み、学習のまとめをしようとする態度を養う。
A	2年で学習した計算や作図が的確にできる。 2年で学習した用語や定義、性質を的確に理解している。	2年の学習に関する見方や考え方を確かめたり、その関係を考えたり、活用したりしている。	2年で学習したことに進んで取り組んだり見直したりして、学習のまとめをしようとしている。
B	2年で学習した計算や作図ができる。	2年の学習に関する見方や考え方を確かめたり、その関係を考えたりしている。	2年で学習したことに進んで取り組み、学習のまとめをしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
2年のふくしゅうをしよう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ●4位数までの数の構成、大小についてまとめる。 ●約束にしたがって計算ができる。 ●答えの数字が全部違う4つの九九を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4枚の数字のカードを並べて、いろいろな数を作る。 ●計算をする。 ●類似問題を作る。 ●約束にしたがって計算をする。 ●答えの数字が全部違う4つの九九を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろな数を作る活動を通して最大、最小の数を見つけさせる。 ●問2は、まず自分で解いて正しいかどうか確かめさせる。 ●類似問題を作らせ、友だち同士で解かせる。 【主】十進位取り記数法の考えをもとに、最大・最小の数を見つけようとしている。 【知】類似問題を作ることができる。 【思】乗法九九の答えの数字に着目しながら、考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法の意味を、問題作りを通してまとめる。 ●格子状の点をつないで、三角形と四角形をかく。 ●長さを測定し、複名数と単名数で表す。 ●かさを測定し、複名数と単名数で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●乗法の問題を解く。 ●条件や場面を変えて、問題を作る。 ●三角形、四角形の作図をする。 ●長さをものさしで測り、cmとmmの単位関係をまとめる。 ●LとdLの単位関係をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●条件を確認・整理させながら問題を解かせる。 【思】乗法の意味を理解し、問題を作ることができる。 ●既習の平面図形の定義についてもまとめる。 【思】基本的な図形が弁別できる。 ●身近なものをたくさん取り上げ、量感を豊かにしながら、単位の関係をまとめさせるようにする。 【知】長さやかさの単位関係を理解している。

プログラミングの口

<3月下旬・2ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●論理的思考力を使って、問題を解決する。	●論理的思考力を使って、課題を解決する。	【思】論理的思考力を使って、課題を解決している。

今の自分を知ろう！

<3月下旬・3ページ・1時間>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●これまでの単元の学習をもとに、数の教え方、加法や減法をつかってクイズを作る。	●班に分かれ、それぞれ学習した分野の問題を作成する。	【主】自分の考えを人に説明したり、他の人の考えを聞いたりしようとしている。